

2. 消費者被害の経験について

主な悪質商法のうち、特に高齢者が狙われやすいとされる5つの悪質商法について、個別に被害の経験等をたずねた。

【5つの悪質商法】

- ①架空請求
- ②点検商法
- ③次々販売
- ④利殖商法
- ⑤催眠(SF)商法

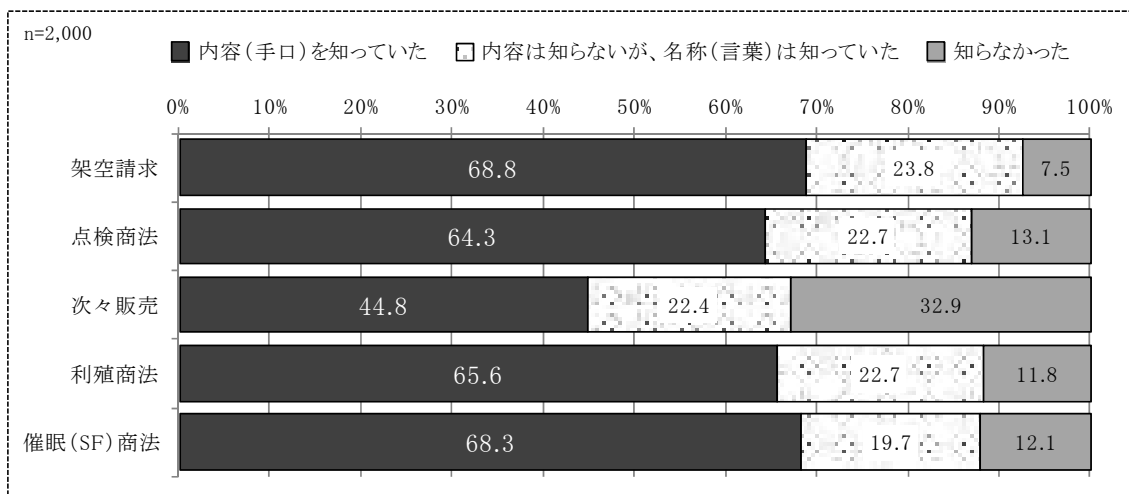
(1) 消費者被害の経験 [全体]

① 5つの悪質商法の認知

5つの悪質商法について「内容(手口)を知っていた」は、架空請求が68.8%で最も高く、次いで、催眠(SF)商法が68.3%、利殖商法が65.6%、点検商法が64.3%、次々販売が44.8%となっている。

また、認知度(「内容(手口)を知っていた」+「内容は知らないが、名称(言葉)は知っていた」)は、架空請求(92.6%)、利殖商法(88.3%)、催眠(SF)商法(88.0%)、点検商法(87.0%)ではいずれも9割近くと高い割合で認知されており、次々販売(67.2%)のみ7割程度であった。

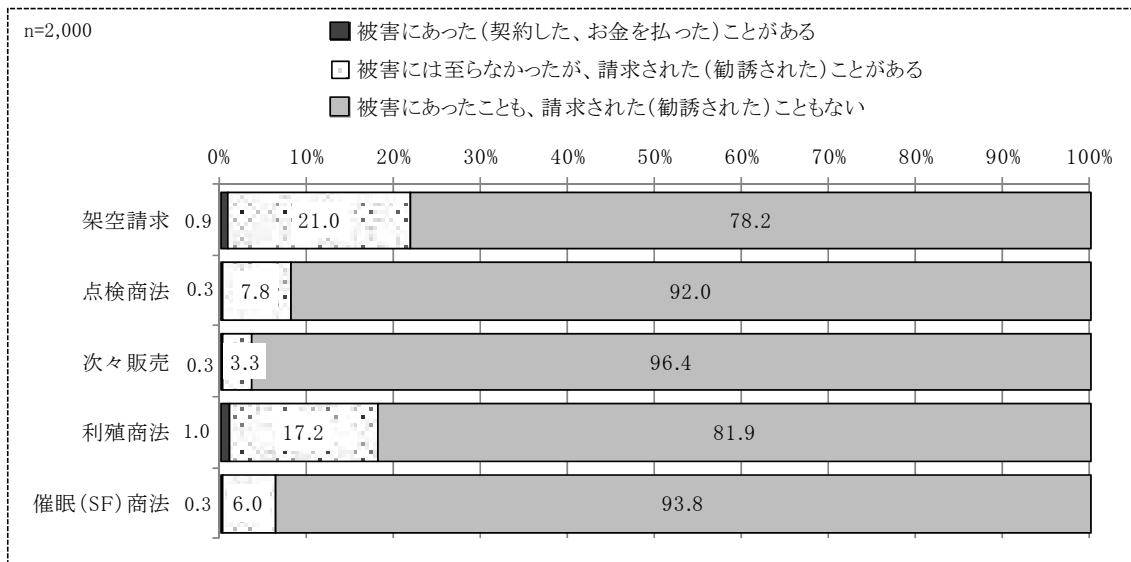
図表 2_1. 5つの悪質商法の認知



② 5つの悪質商法の被害経験

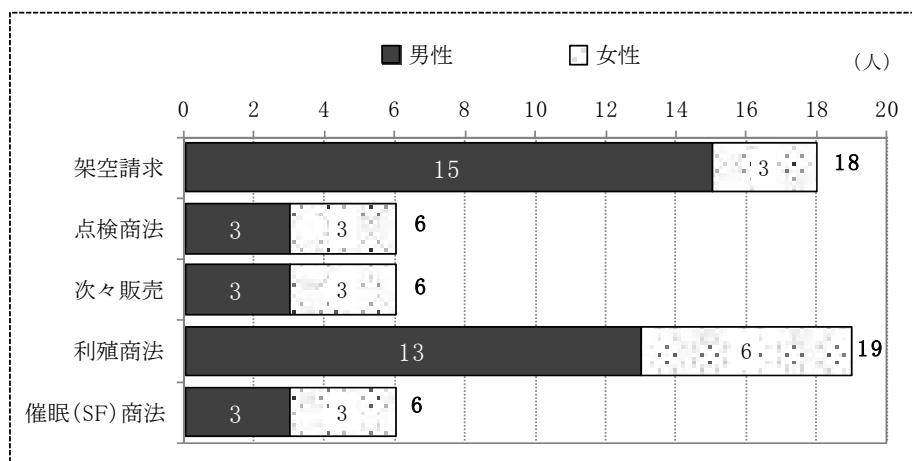
5つの悪質商法それぞれについてみると、60才を過ぎてから「被害にあった（契約した・お金を払った）ことがある」とする実被害の経験は、利殖商法が1.0%（19人）で最も高く、次いで、架空請求が0.9%（18人）、点検商法、次々販売、催眠（SF）商法がそれぞれ0.3%（6人）であった。

図表 2_2. 5つの悪質商法の被害経験



5つの悪質商法で被害にあった人数は、架空請求が18人（男性15人、女性3人）、点検商法が6人（男性3人、女性3人）、次々販売が6人（男性3人、女性3人）、利殖商法が19人（男性13人、女性6人）、催眠（SF）商法が6人（男性3人、女性3人）となっており、被害にあった延べ人数は55人となっている。

図表 2_3. 5つの悪質商法の被害にあった人数

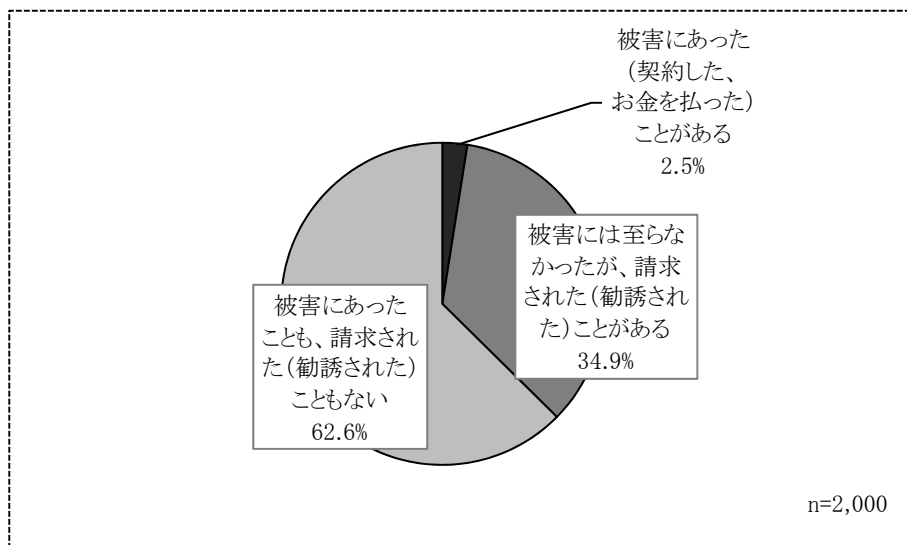


③悪質商法の被害経験

5つの悪質商法のいずれかの被害にあった経験についてみると、「被害にあった（契約した・お金を払った）ことがある」は2.5%（50人）、「被害には至らなかったが、請求された（勧誘された）ことがある」は34.9%（698人）となっており合わせて約4割となる。5つの悪質商法それぞれで被害にあった人数の合計は55人となっているが、そのうち4人が複数の悪質商法で被害にあっている。

「被害にあったことも、請求された（勧誘された）こともない」は62.6%（1,252人）となっている。

図表 2_4. 悪質商法の被害経験



5つの悪質商法のいずれかで被害にあった人（50人）の状況を見ると、ひとつの商法での被害が9割を超えている（92.0%）。

複数の悪質商法での被害経験がある人（4人）のうち3人は2つの商法、1人は3つの商法の被害に遭っている。また、被害経験がある人（4人）のうち3人は催眠（SF）と他の悪質商法との組合せで被害に遭っている。

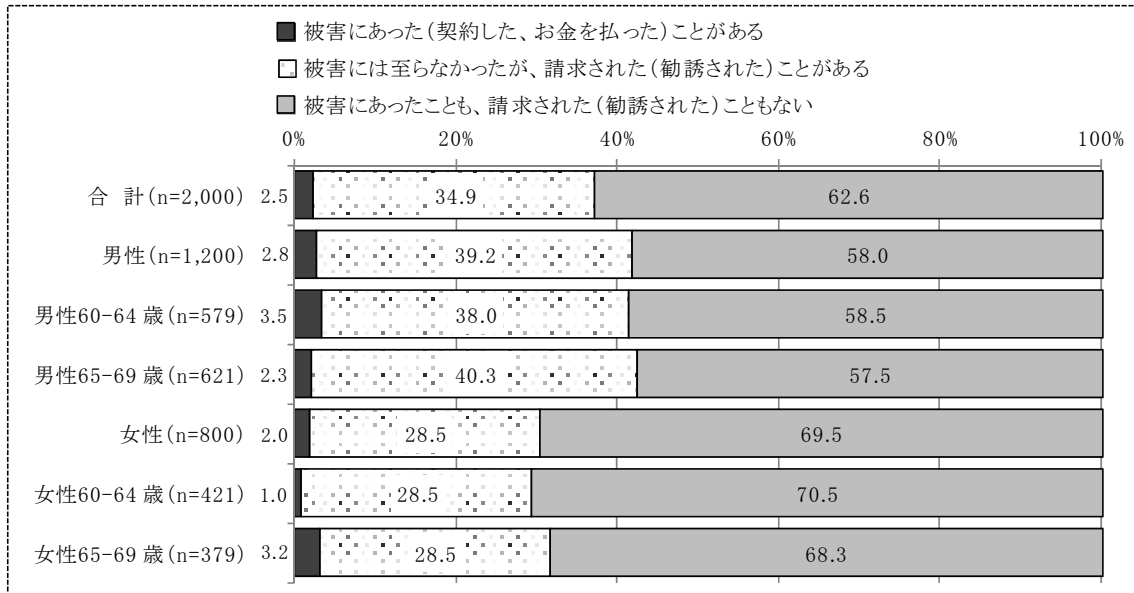
図表 2_5. 悪質商法被害の組合せ

順位	件数	(%)	被害に遭った悪質商法	被害数
1	17	34.0	利殖商法	1
2	16	32.0	架空請求	1
3	5	10.0	次々販売	1
4	5	10.0	点検商法	1
5	3	6.0	催眠(SF)商法	1
6	1	2.0	架空請求・催眠(SF)商法	2
7	1	2.0	架空請求・利殖商法・催眠(SF)商法	3
8	1	2.0	次々販売・利殖商法	2
9	1	2.0	点検商法・催眠(SF)商法	2
	50	100.0		

(件)

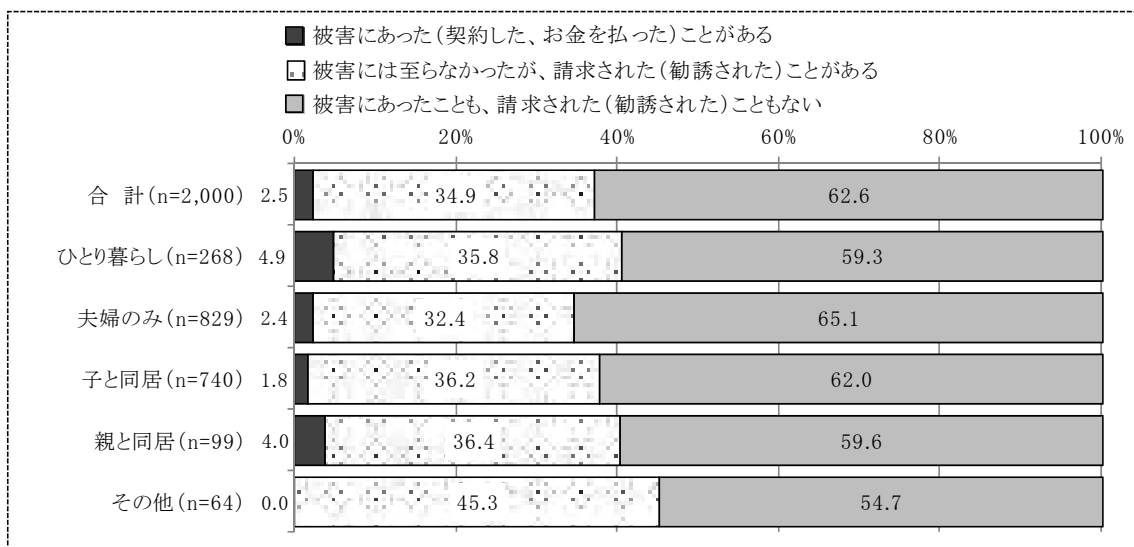
性別・年齢別にみると、「被害にあった（契約した・お金を払った）ことがある」は、男性 60～64 歳が 3.5%で最も高く、次いで女性 65～69 歳が 3.2%、男性 65～69 歳が 2.3%となっている。「被害には至らなかったが、請求された（勧誘された）ことがある」は、男性が 39.2%と 4 割弱、女性は 28.5%と 3 割弱となっている。

図表 2_6. 悪質商法の被害経験（性別・年齢別）



家族構成別にみると、「被害にあった（契約した・お金を払った）ことがある」は、ひとり暮らしが 4.9%で最も高く、次いで親と同居が 4.0%、夫婦のみが 2.4%、子と同居が 1.8%となっている。「被害には至らなかったが、請求された（勧誘された）ことがある」は、その他が 45.3%と高くなっている。

図表 2_7. 悪質商法の被害経験（家族構成別）

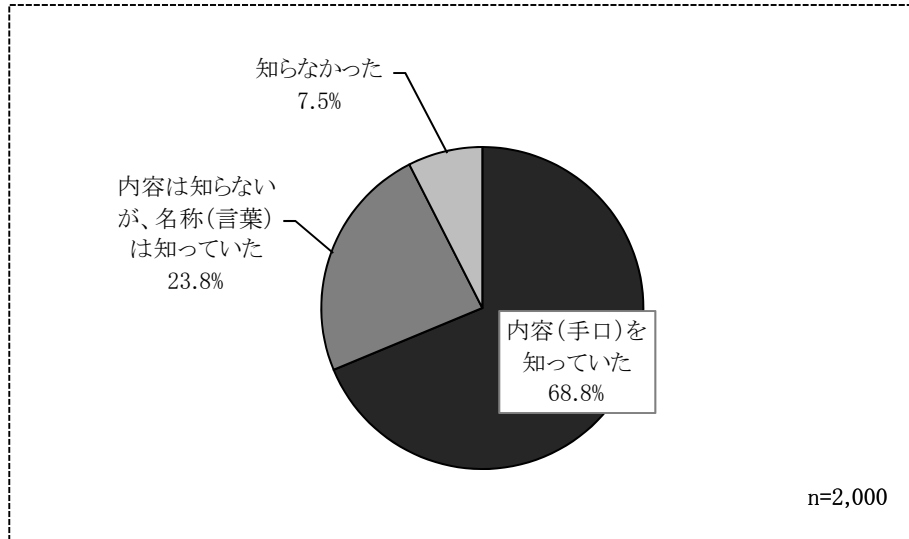


(2) 消費者被害の経験〔架空請求〕

① 架空請求の認知

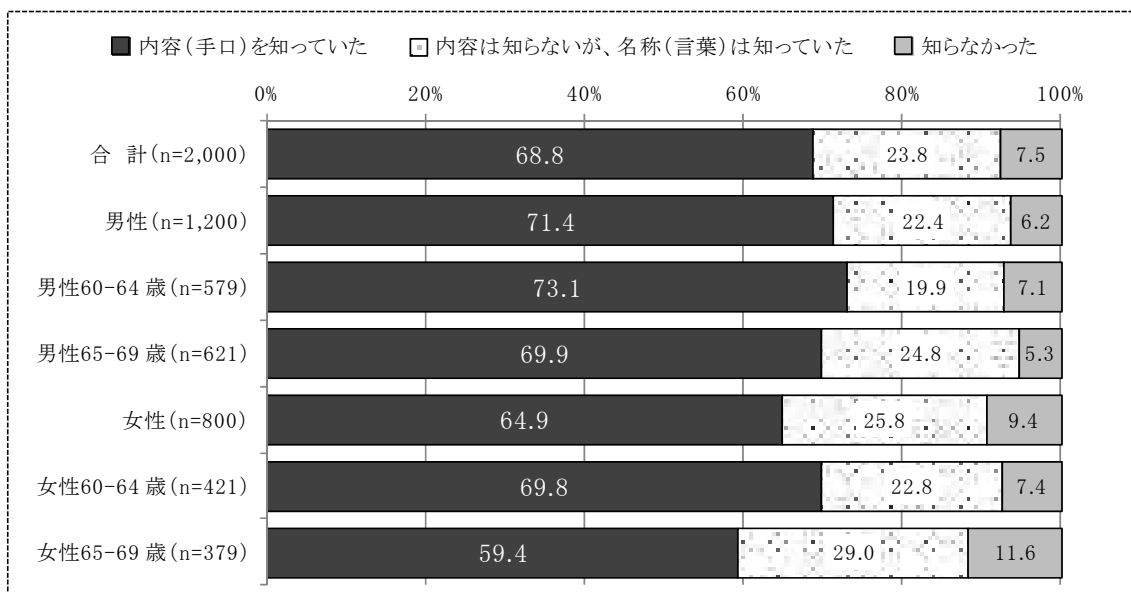
架空請求の認知は、「内容（手口）を知っていた」が68.8%、「内容は知らないが、名称（言葉）は知っていた」が23.8%、「知らなかった」が7.5%となっている。

図表 2_8. 架空請求の認知



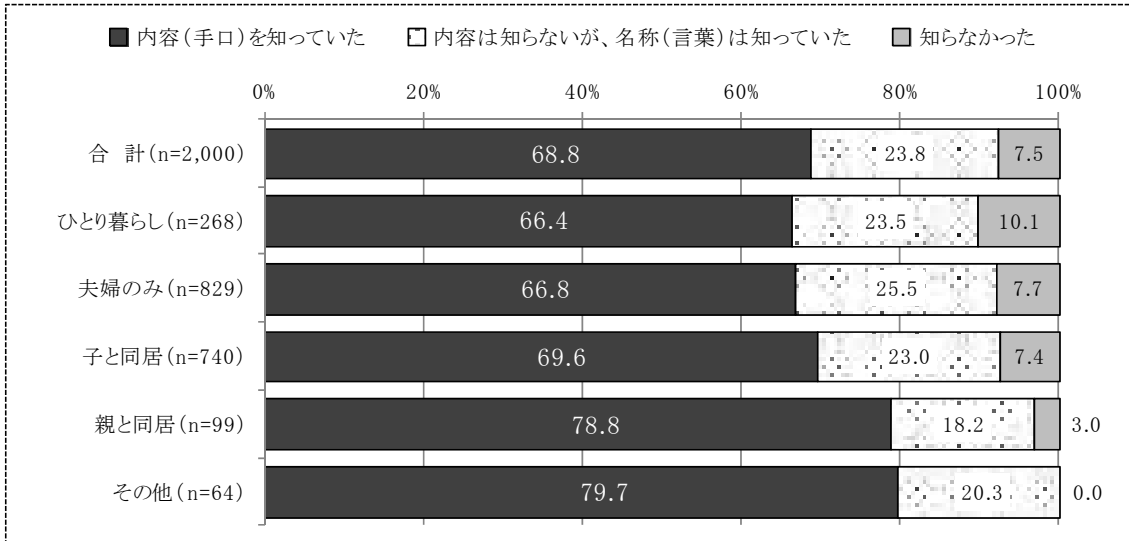
性別・年齢別にみると、「内容（手口）を知っていた」は、男性60～64歳が73.1%で最も高く、次いで男性65～69歳が69.9%、女性60～64歳が69.8%となっている。また、「知らなかった」は、女性65～69歳が11.6%と最も多く1割を超えており。次いで、女性60～64歳が7.4%、男性60～64歳が7.1%、男性65～69歳が5.3%となっている。

図表 2_9. 架空請求の認知（性別・年齢別）



家族構成別にみると、「内容（手口）を知っていた」は、その他が 79.7%で最も高く、次いで親と同居が 78.8%、子と同居が 69.6%となっている。また、「知らなかった」は、ひとり暮らし（10.1%）で 1 割を超えており、次いで夫婦のみが 7.7%、子と同居が 7.4%、親と同居が 3.0%となっていた。

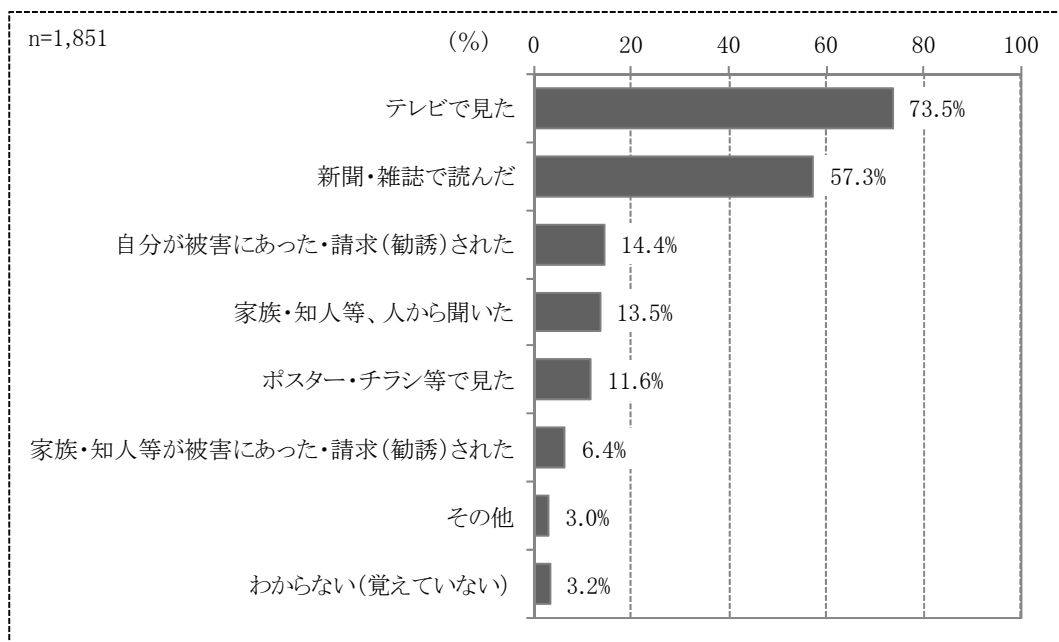
図表 2_10. 架空請求の認知（家族構成別）



② 「架空請求」の認知経路

架空請求という悪質商法を認知している人（1,851 人）の認知経路は、「テレビで見た」が 73.5%で最も高く、次いで「新聞・雑誌で読んだ」が 57.3%、「自分が被害にあった・請求された（勧誘された）」が 14.4%、「家族・知人等、人から聞いた」が 13.5%となっている。

図表 2_11. 架空請求の認知経路（複数回答）



性別・年齢別にみると、男女ともにすべての年代で「テレビで見た」が1位となっており、特に女性60～64歳が79.2%で最も高く8割近い。次いで「新聞・雑誌で読んだ」が男女ともに高く、男性で6割弱(59.9%)、女性も5割を超えている(53.2%)。また、「家族・知人等、人から聞いた」は女性(19.3%)が男性(9.8%)を9.5ポイント上回り、「自分が被害にあった・請求された(勧誘された)」は男性(19.8%)が女性(6.1%)を13.7ポイント上回っており性別による差が見られた。

家族構成別にみると、その他以外の区分では「テレビで見た」が1位となっており、子と同居が74.9%で最も高くなっている。また、「新聞・雑誌で読んだ」がその他で1位、その他以外の区分で2位となっているが「ひとり暮らし」は43.2%と最も低くなっている。

図表 2_12. 架空請求の認知経路(性別・年齢別、家族構成別)(複数回答)

(%)

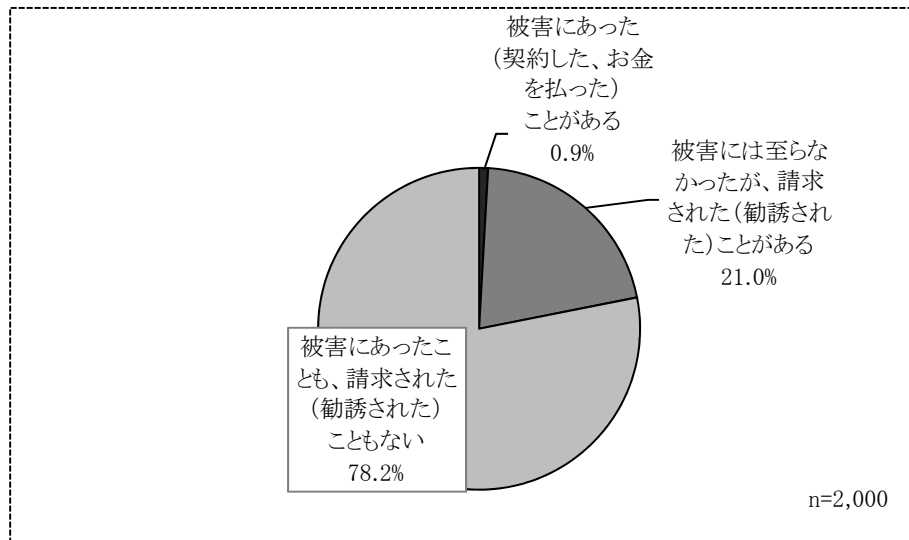
N数		新聞・雑誌で読んだ	ポスター・チラシ等で見た	テレビで見た	家族・知人等、人から聞いた	自分が被害にあった・請求された(勧誘された)	家族・知人等が被害にあった・請求(勧誘)された	その他	わからない(覚えていない)
【全体】	(1,851)	57.3	11.6	73.5	13.5	14.4	6.4	3.0	3.2
【性別・年齢別】									
男性	(1,126)	59.9	11.5	70.8	9.8	19.8	5.5	3.6	3.6
60-64歳	(538)	55.4	10.4	66.5	9.3	22.5	5.9	4.3	3.7
65-69歳	(588)	64.1	12.4	74.7	10.2	17.3	5.1	2.9	3.6
女性	(725)	53.2	11.9	77.8	19.3	6.1	7.7	2.1	2.6
60-64歳	(390)	53.1	8.7	79.2	17.9	6.7	8.5	1.5	2.6
65-69歳	(335)	53.4	15.5	76.1	20.9	5.4	6.9	2.7	2.7
【家族構成別】									
ひとり暮らし	(241)	43.2	10.8	71.4	11.6	19.1	7.9	3.3	5.0
夫婦のみ	(765)	57.8	13.5	73.9	13.1	13.1	4.7	3.1	2.9
子と同居	(685)	60.1	10.7	74.9	15.8	14.0	7.4	2.6	3.1
親と同居	(96)	62.5	5.2	74.0	6.3	14.6	8.3	4.2	3.1
その他	(64)	67.2	12.5	62.5	12.5	17.2	6.3	1.6	3.1

[注] 網掛けは各年齢・家族構成で第1位の項目

③ 「架空請求」の被害経験

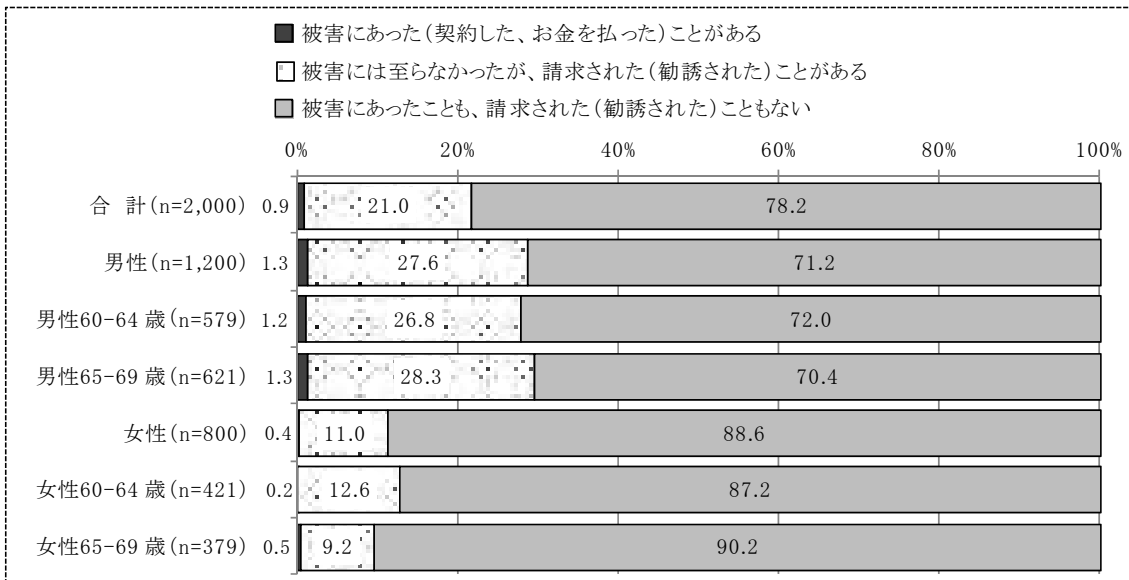
60歳を過ぎてからの架空請求による被害経験は、「被害にあった（契約した・お金を払った）ことがある」が0.9%、「被害には至らなかったが、請求された（勧誘された）ことがある」が21.0%、「被害にあったことも、請求された（勧誘された）こともない」が78.2%となっており、被害経験のある人は18人であった。

図表 2_13. 架空請求の被害経験



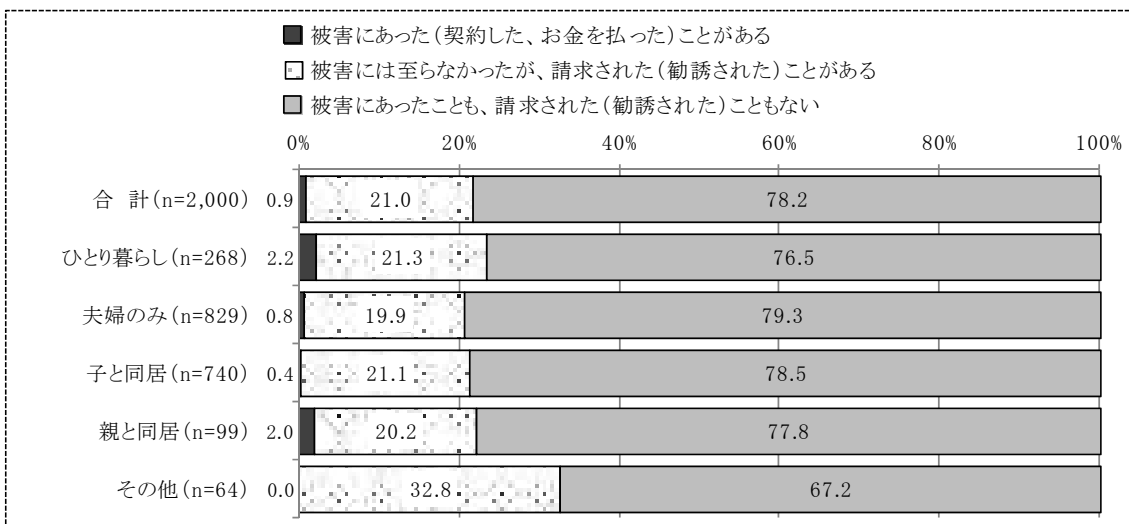
性別・年齢別にみると、「被害にあった（契約した・お金を払った）ことがある」は、男性 65～69 歳が 1.3%で最も高く、次いで男性 60～64 歳が 1.2%、女性 65～69 歳が 0.5%、女性 60～64 歳が 0.2%となっている。「被害には至らなかったが、請求された（勧誘された）ことがある」は、男性は 65～69 歳が 28.3%、60～64 歳が 26.8%と 3 割近く、女性は 60～64 歳が 12.6%、65～69 歳が 9.2%と 1 割前後であった。

図表 2_14. 架空請求による被害経験（性別・年齢別）



家族構成別にみると、「被害にあった（契約した・お金を払った）ことがある」は、ひとり暮らしが 2.2%で最も高く、次いで親と同居が 2.0%、夫婦のみが 0.8%となっている。「被害には至らなかったが、請求された（勧誘された）ことがある」は、その他以外の区分で 2 割程度となっている。

図表 2_15. 架空請求による被害経験（家族構成別）

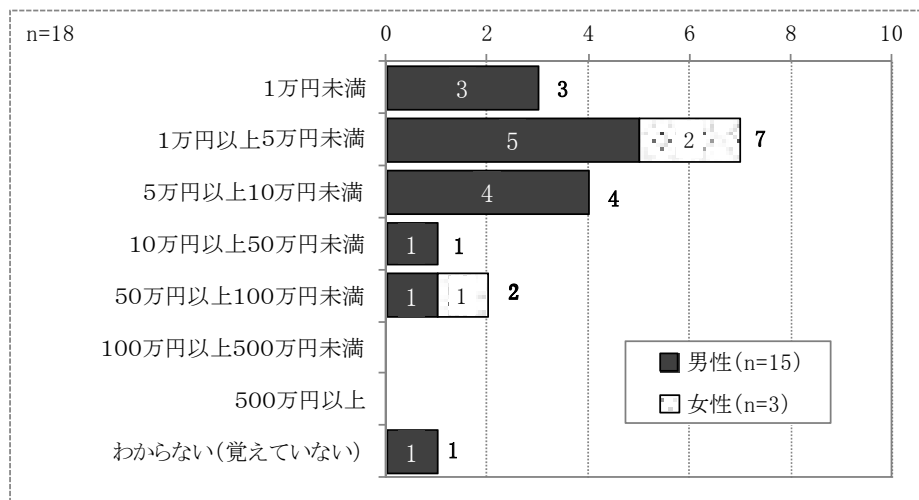


④ 「架空請求」による被害金額

架空請求による被害経験者 18 人（男性 15 人、女性 3 人）の被害金額は、「1 万円以上 5 万円未満」が 7 人（男性 5 人、女性 2 人）で最も多く、次いで「5 万円以上 10 万円未満」が 4 人（男性 4 人、女性 0 人）、「1 万円未満」が 3 人（男性 3 人、女性 0 人）となっている。

また、10 万円以上の高額な被害は「10 万円以上 50 万円未満」が男性 1 人、「50 万円以上 100 万円未満」が 2 人（男性 1 人、女性 1 人）となっている。

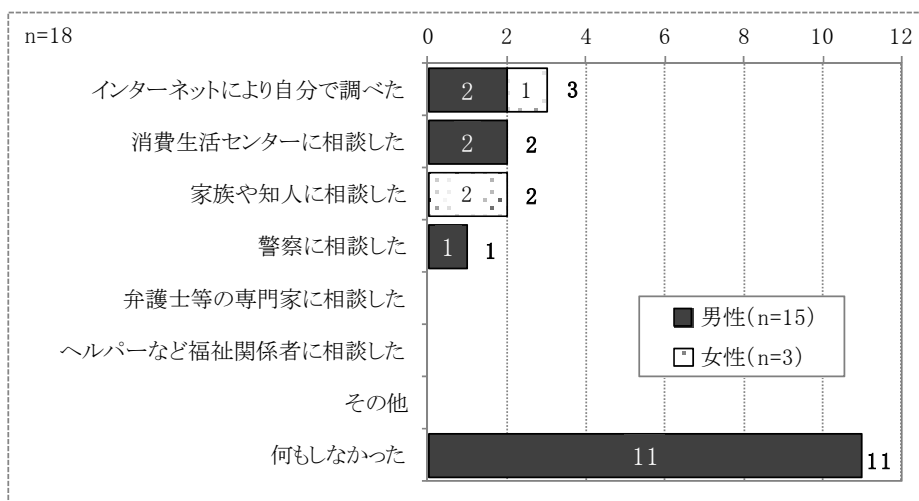
図表 2_16. 架空請求による被害金額（男女別人数）



⑤ 「架空請求」による被害後の行動

架空請求による被害経験者 18 人（男性 15 人、女性 3 人）の被害後の行動は、「何もしなかった」が男性 11 人で最も多くなっている。具体的な行動では、「インターネットにより自分で調べた」が 3 人（男性 2 人、女性 1 人）、「消費生活センターに相談した」が男性 2 人、「家族や知人に相談した」が女性 2 人、「警察に相談した」が男性 1 人となっている。

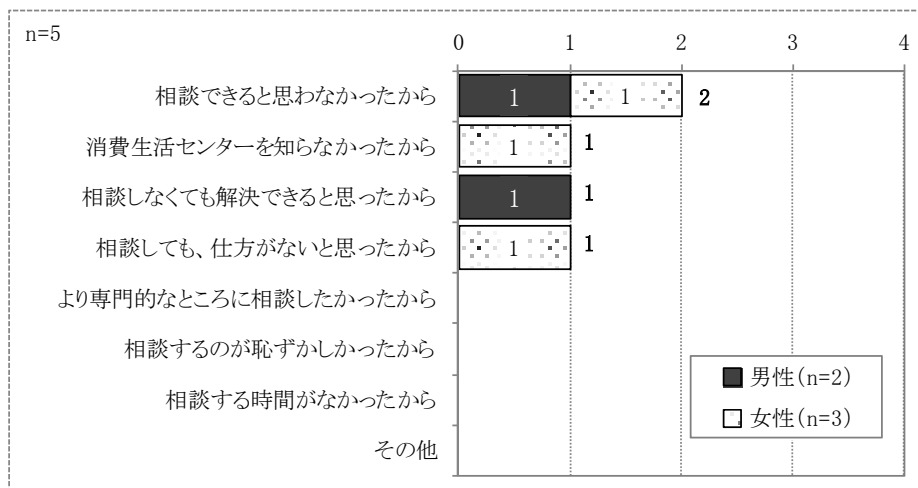
図表 2_17. 架空請求による被害後の行動（男女別人数）（複数回答）



⑥ 「架空請求」による被害時に消費生活センターへ相談しなかった理由

架空請求による被害経験者のうち被害時に消費生活センターへ相談しなかった 5 人（男性 2 人、女性 3 人）の理由は、「相談できると思わなかったから」が 2 人（男性 1 人、女性 1 人）で最も多く、「消費生活センターを知らなかったから」が女性 1 人、「相談しなくても解決できると思ったから」が男性 1 人、「相談しても仕方がないと思ったから」が男性 1 人となっている。

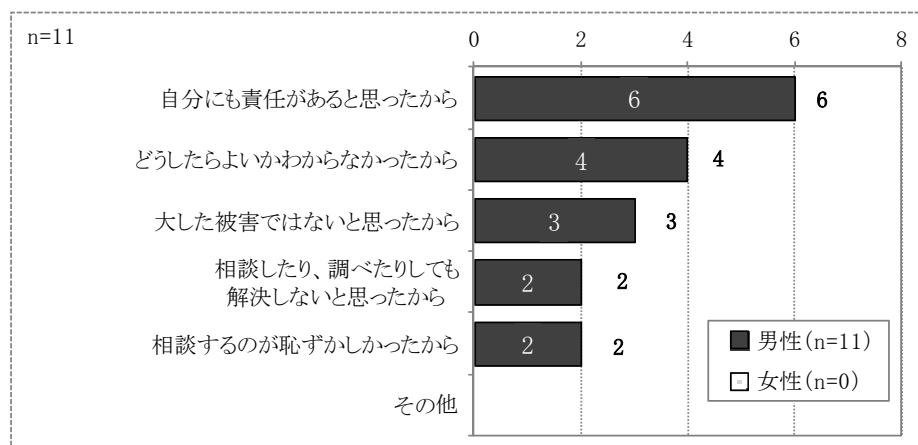
図表 2_18. 架空請求による被害時に消費生活センターへ相談しなかった理由
（男女別人数）（複数回答）



⑦ 「架空請求」による被害時に何もしなかった理由

架空請求による被害経験者のうち被害時に何もしなかった 11 人（男性 11 人、女性 0 人）の理由は、「自分にも責任があると思ったから」が男性 6 人で最も多く、「どうしたらよいか、わからなかったから」が 4 人、「大した被害ではないと思ったから」が 3 人、「相談したり調べたりしても解決しないと思ったから」が 2 人、「相談するのが恥ずかしかったから」が 2 人となっている。

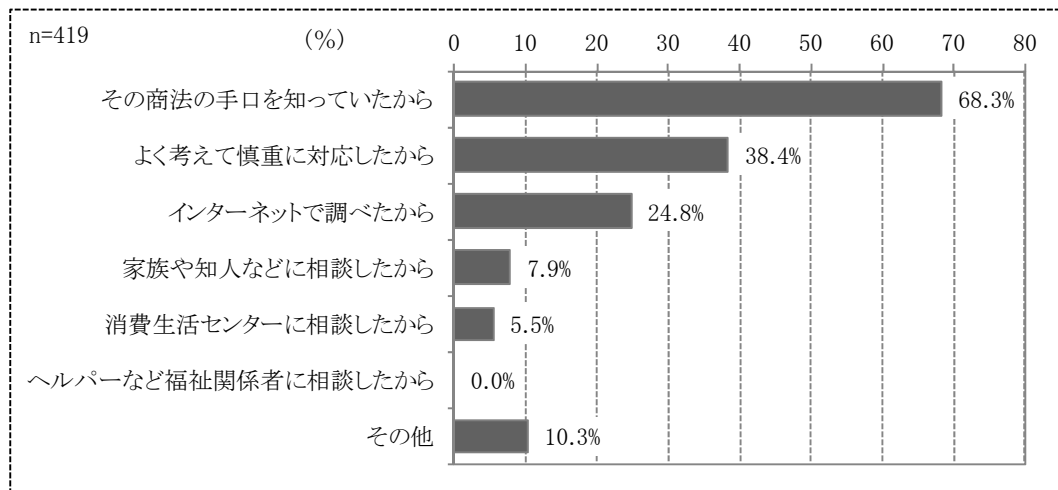
図表 2_19. 架空請求による被害時に何もしなかった理由（男女別人数）（複数回答）



⑧「架空請求」により請求されたが実被害に至らなかった理由

架空請求により請求されたが実被害に至らなかった人（419人）の理由は、「その商法の手口を知っていたから」が68.3%で最も高く、次いで「よく考えて慎重に対応したから」が38.4%、「インターネット等で調べたから」が24.8%、「家族や知人に相談したから」が7.9%、「消費生活センターに相談したから」が5.5%となっている。「その他」の具体的な内容は、「無視したから」が18人で4.3%、「警察に相談したから」が16人で3.8%であった。

図表 2_20. 架空請求により請求されたが実被害に至らなかった理由（複数回答）



性別・年齢別にみると、男女ともにすべての年代で「その商法の手口を知っていたから」が1位となっており、男性60～64歳が71.6%で最も高くなっている。「家族や知人などに相談したから」は、男性はすべての年代で1割に満たず、女性は65～69歳で2割となっており、男性（6.0%）と女性（14.8%）に8.8ポイント違いがあり、性別による差があると見られる。

家族構成別にみると、すべての区分で「その商法の手口を知っていたから」が1位となっており、その他が90.5%で最も高くなっている。次いで「よく考えて慎重に対応したから」が2位となっており、その他が42.9%となっている。

図表 2_21. 架空請求により請求されたが実被害に至らなかった理由
(性別・年齢別、家族構成別) (複数回答)

(%)

		N数	その商法の手口を知っていたから	よく考えて慎重に対応したから	家族や知人などに相談したから	ヘルパーなど福祉関係者に相談したから	消費生活センターに相談したから	インターネットで調べたから	その他
【全体】		(419)	68.3	38.4	7.9	0.0	5.5	24.8	10.3
【性・年齢別】									
男性		(331)	69.2	38.1	6.0	0.0	5.4	26.0	9.4
60-64歳		(155)	71.6	40.0	3.2	0.0	3.9	27.1	7.7
65-69歳		(176)	67.0	36.4	8.5	0.0	6.8	25.0	10.8
女性		(88)	64.8	39.8	14.8	0.0	5.7	20.5	13.6
60-64歳		(53)	64.2	35.8	11.3	0.0	1.9	22.6	17.0
65-69歳		(35)	65.7	45.7	20.0	0.0	11.4	17.1	8.6
【家族構成別】									
ひとり暮らし		(57)	56.1	38.6	5.3	0.0	8.8	28.1	8.8
夫婦のみ		(165)	70.3	38.2	7.9	0.0	5.5	20.6	10.3
子と同居		(156)	68.6	38.5	9.0	0.0	5.1	26.9	9.0
親と同居		(20)	60.0	35.0	10.0	0.0	5.0	30.0	25.0
その他		(21)	90.5	42.9	4.8	0.0	0.0	28.6	9.5

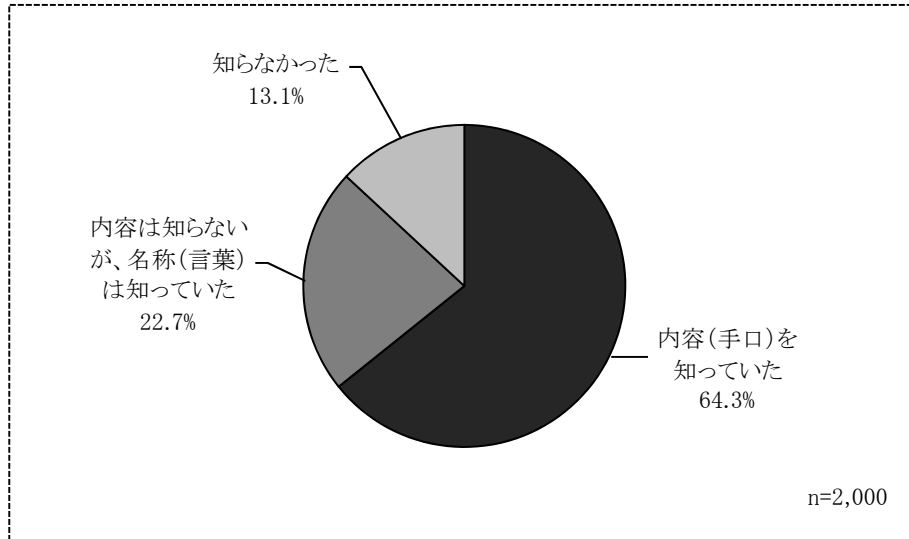
[注] 網掛けは各年齢・家族構成で第1位の項目

(3) 消費者被害の経験〔点検商法〕

①点検商法の認知

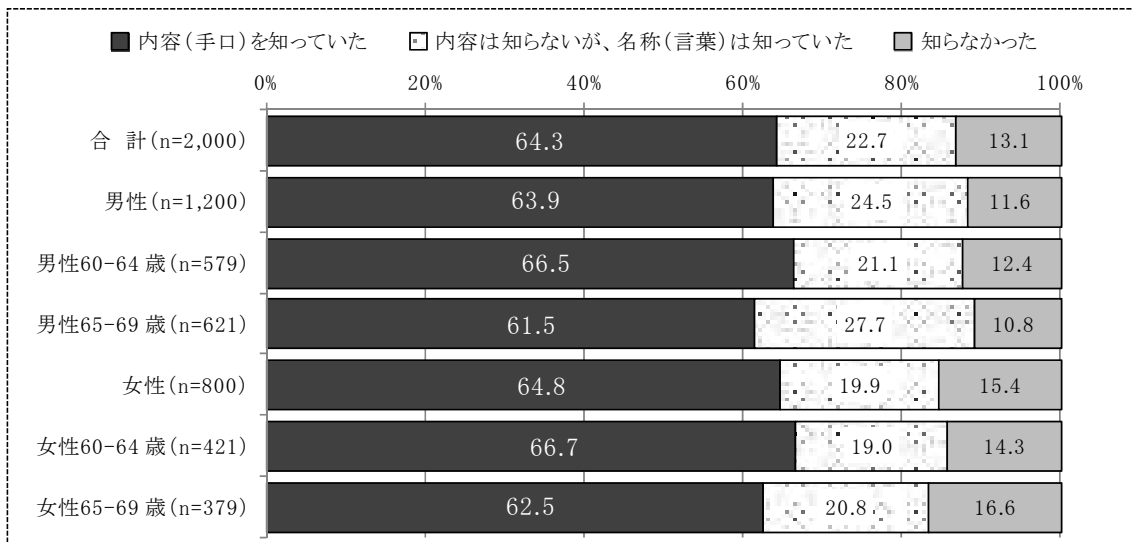
点検商法の認知は、「内容（手口）を知っていた」が64.3%、「内容は知らないが、名称（言葉）は知っていた」が22.7%、「知らなかった」が13.1%となっている。

図表 2_22. 点検商法の認知



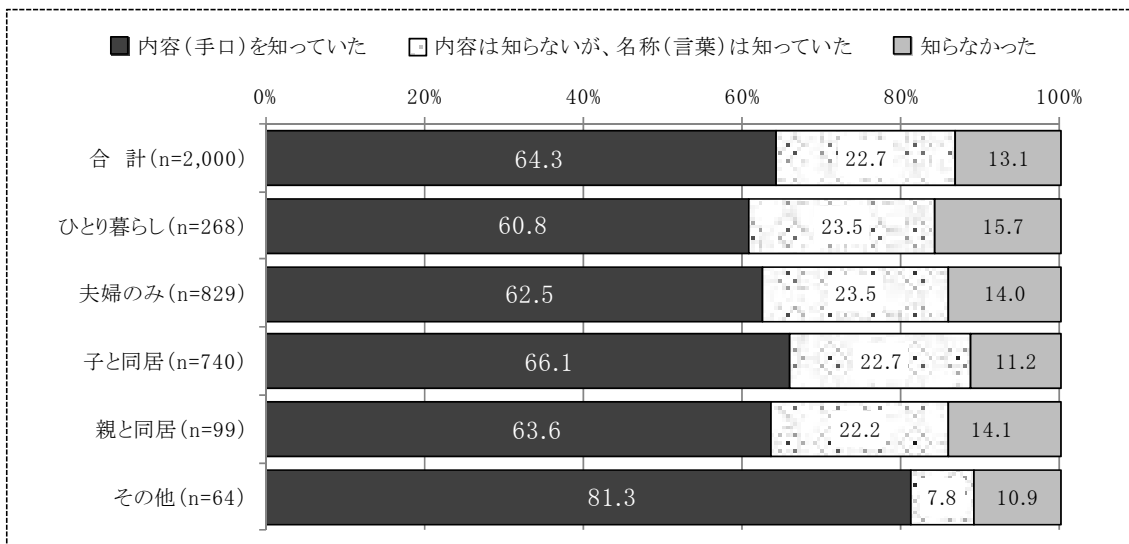
性別・年齢別にみると、「内容（手口）を知っていた」は、女性60～64歳が66.7%で最も高く、次いで男性60～64歳が66.5%、女性65～69歳が62.5%、男性65～69歳が61.5%となっている。また、「知らなかった」は、男女全ての年代で1割を超えている。

図表 2_23. 点検商法の認知（性別・年齢別）



家族構成別にみると、「内容（手口）を知っていた」は、その他が 81.3%で最も高く、次いで子と同居が 66.1%、親と同居が 63.6%となっている。また「知らなかった」は全体でも 1 割を超えており、ひとり暮らしが 15.7%と最も高く、次いで親と同居が 14.1%、夫婦のみが 14.0%となっている。

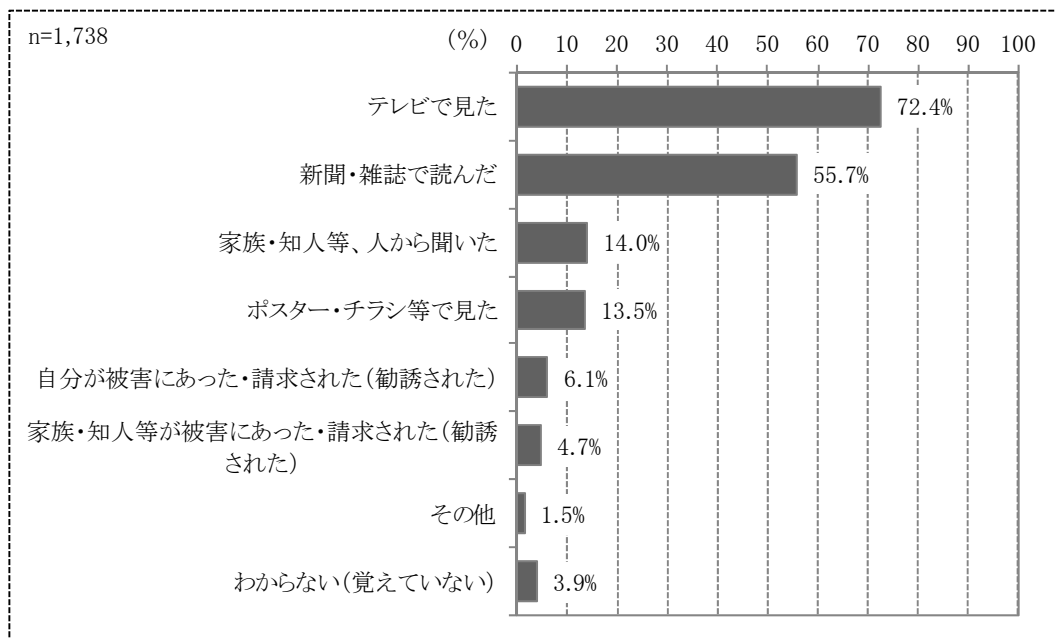
図表 2_24. 点検商法の認知（家族構成別）



② 「点検商法」の認知経路

点検商法という悪質商法を認知している人 (1,738 人) の認知経路は、「テレビで見た」が 72.4%で最も高く、次いで「新聞・雑誌で読んだ」が 55.7%、「家族・知人等、人から聞いた」が 14.0%、「ポスター・チラシ等で見た」が 13.5%、となっている。

図表 2_25. 点検商法の認知経路（複数回答）



性別・年齢別にみると、男女ともにすべての年代で「テレビで見た」が1位となっており、女性60～64歳が77.6%で最も高くなっている。「家族・知人等、人から聞いた」は、女性（20.1%）が男性（10.2%）を9.9ポイント上回り、性別による差が見られる。

家族構成別にみると、すべての区分で「テレビで見た」が1位となっており、ひとり暮らしが75.7%で最も高くなっている。次いですべての区分において「新聞・雑誌で読んだ」が2位となっているが、ひとり暮らしが39.8%と最も低い割合であった。

図表 2_26. 点検商法の認知経路（性別・年齢別、家族構成別）（複数回答）

(%)

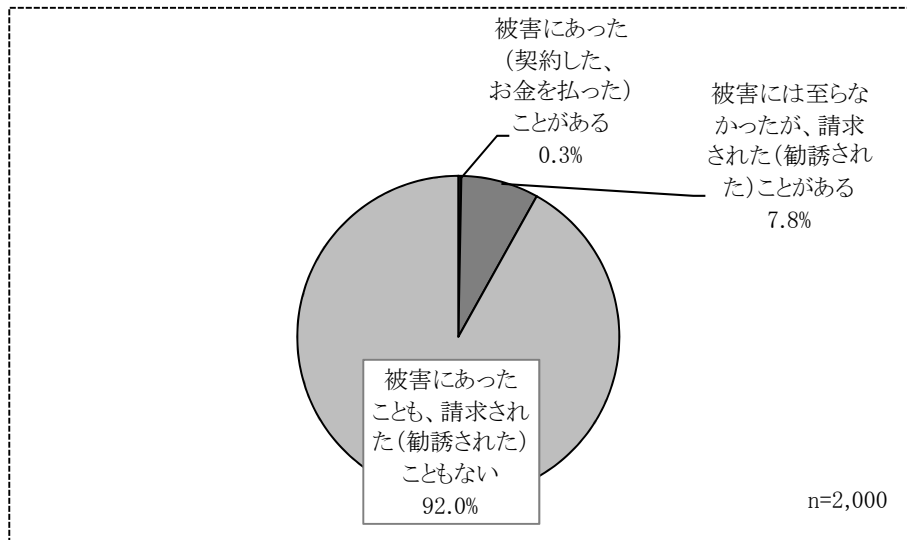
N数		新聞・雑誌で読んだ	ポスター・チラシ等で見た	テレビで見た	家族・知人等、人から聞いた	自分が被害にあった・請求された（勧誘された）	家族・知人等が被害にあった・請求（勧誘）された	その他	わからない（覚えていない）
【全体】	(1,738)	55.7	13.5	72.4	14.0	6.1	4.7	1.5	3.9
【性別・年齢別】									
男性	(1,061)	58.6	13.9	72.3	10.2	6.2	4.1	1.6	3.5
60-64歳	(507)	55.8	11.0	71.0	8.9	6.3	5.3	2.0	3.2
65-69歳	(554)	61.2	16.6	73.5	11.4	6.1	3.1	1.3	3.8
女性	(677)	51.1	12.7	72.7	20.1	5.9	5.6	1.3	4.6
60-64歳	(361)	49.0	8.6	77.6	15.8	5.0	6.4	0.6	4.4
65-69歳	(316)	53.5	17.4	67.1	25.0	7.0	4.7	2.2	4.7
【家族構成別】									
ひとり暮らし	(226)	39.8	12.8	75.7	15.9	7.1	2.7	3.5	4.4
夫婦のみ	(713)	59.6	13.9	73.6	13.9	5.6	5.0	1.4	2.2
子と同居	(657)	56.6	13.1	70.9	13.7	5.6	5.0	1.2	5.2
親と同居	(85)	58.8	12.9	70.6	11.8	4.7	4.7	0.0	3.5
その他	(57)	54.4	15.8	64.9	15.8	15.8	5.3	0.0	8.8

[注] 網掛けは各年齢・家族構成で第1位の項目

③「点検商法」の被害経験

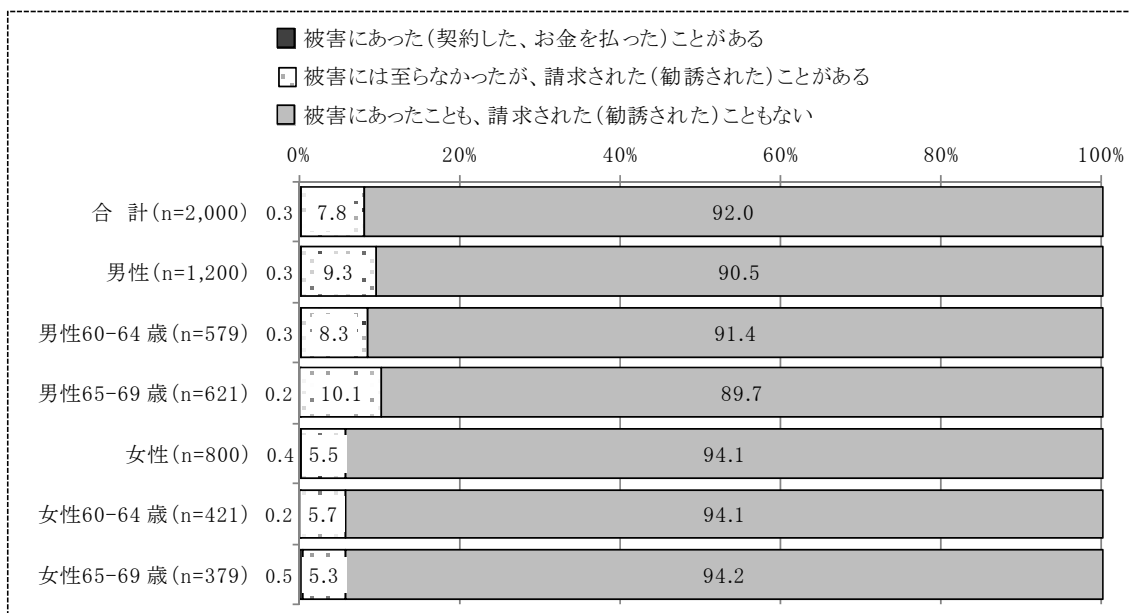
点検商法による被害経験は、「被害にあった（契約した・お金を払った）ことがある」が0.3%、「被害には至らなかったが、請求された（勧誘された）ことがある」が7.8%、「被害にあったことも、請求された（勧誘された）こともない」が92.0%となっており、被害経験のある人は6人であった。

図表 2_27. 点検商法の被害経験



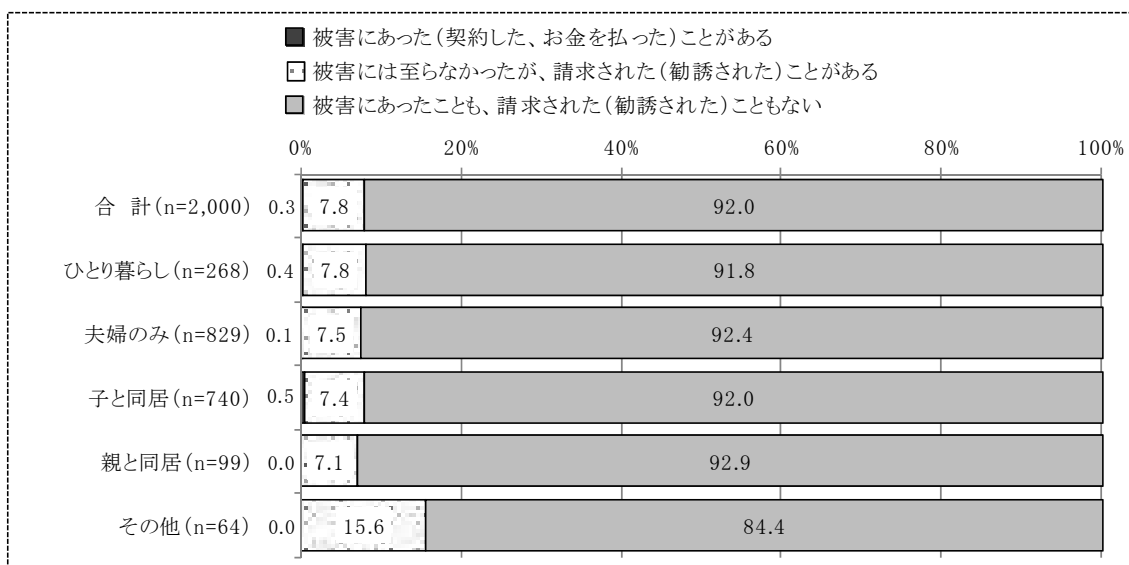
性別・年齢別にみると、「被害にあった（契約した・お金を払った）ことがある」は、女性 65～69 歳が 0.5%で最も高く、次いで男性 60～64 歳が 0.3%、男性 65～69 歳と女性 60～64 歳がともに 0.2%となっている。「被害には至らなかったが、請求された（勧誘された）ことがある」は、男性 65～69 歳が 10.1%と 1 割を超えており、次いで男性 60～64 歳が 8.3%、女性 60～64 歳が 5.7%、女性 65～69 歳が 5.3%となっている。

図表 2_28. 点検商法による被害経験（性別・年齢別）



家族構成別にみると、「被害にあった（契約した・お金を払った）ことがある」は、子と同居が 0.5%で最も高く、次いでひとり暮らしが 0.4%、夫婦のみが 0.1%となっている。「被害には至らなかったが、請求された（勧誘された）ことがある」は、その他が 15.6%と最も高く、次いでひとり暮らしが 7.8%となっている。

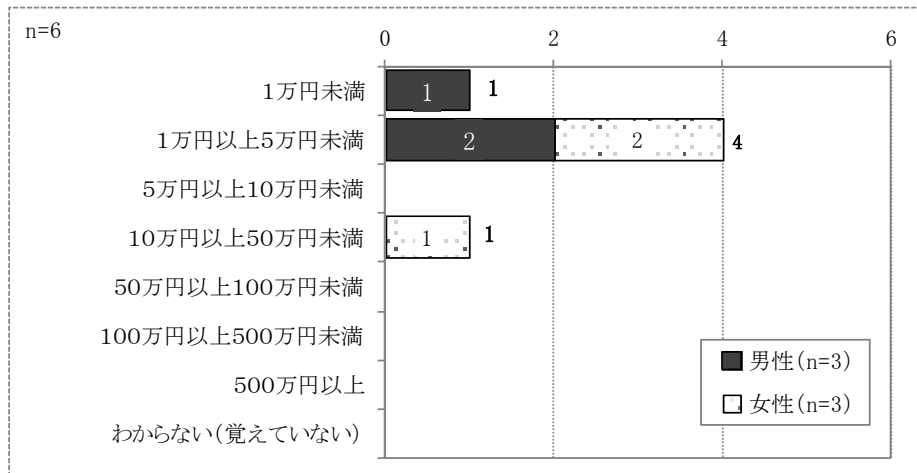
図表 2_29. 点検商法による被害経験（家族構成別）



④ 「点検商法」による被害金額

点検商法による被害経験者 6 人（男性 3 人、女性 3 人）の被害金額は、「1 万円以上 5 万円未満」が 4 人（男性 2 人、女性 2 人）で最も多く、次いで「1 万円未満」が男性 1 人、「10 万円以上 50 万円未満」が女性 1 人となっている。

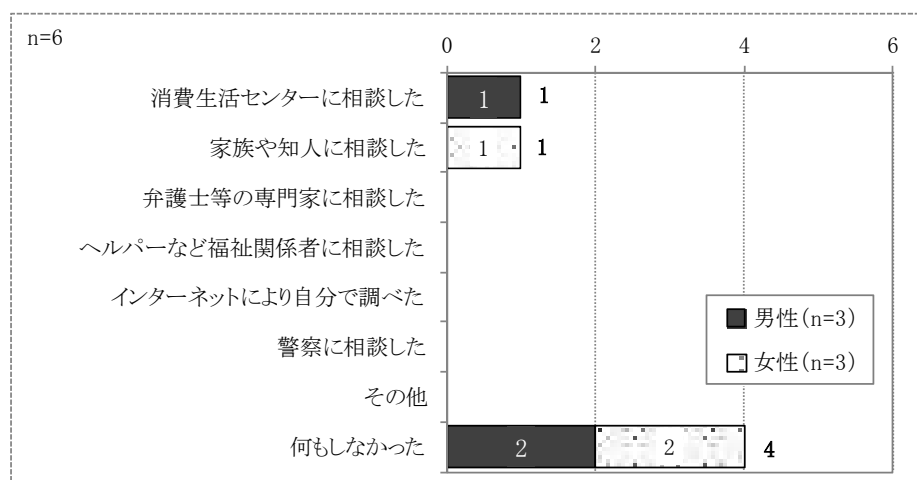
図表 2_30. 点検商法による被害金額（男女別人数）



⑤ 「点検商法」による被害後の行動

点検商法による被害経験者 6 人（男性 3 人、女性 3 人）の被害後の行動は、「何もしなかった」が 4 人（男性 2 人、女性 2 人）で最も多くなっている。具体的な行動では、「消費生活センターに相談した」が男性 1 人、「家族や知人に相談した」が女性 1 人となっている。

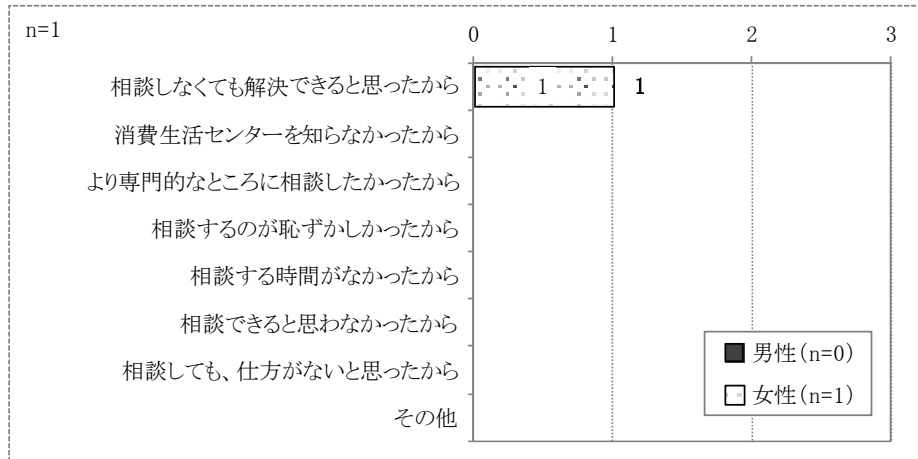
図表 2_31. 点検商法による被害後の行動（男女別人数）（複数回答）



⑥ 「点検商法」による被害時に消費生活センターへ相談しなかった理由

点検商法による被害経験者のうち被害時に消費生活センターへ相談しなかった女性 1 人の理由は、「相談しなくても解決できると思ったから」となっている。

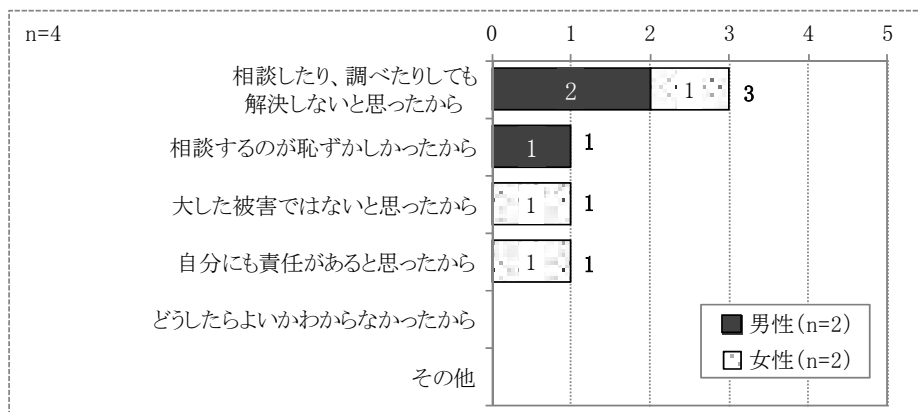
図表 2_32. 点検商法による被害時に消費生活センターへ相談しなかった理由
(男女別人数) (複数回答)



⑦ 「点検商法」による被害時に何もしなかった理由

点検商法による被害経験者のうち被害時に何もしなかった 4 人 (男性 2 人、女性 2 人) の理由は、「相談したり調べたりしても解決しないと思ったから」が 3 人 (男性 2 人、女性 1 人) で最も多く、「相談するのが恥ずかしかったから」が男性 1 人、「大した被害ではないと思ったから」が女性 1 人、「自分にも責任があると思ったから」女性 1 人となっている。

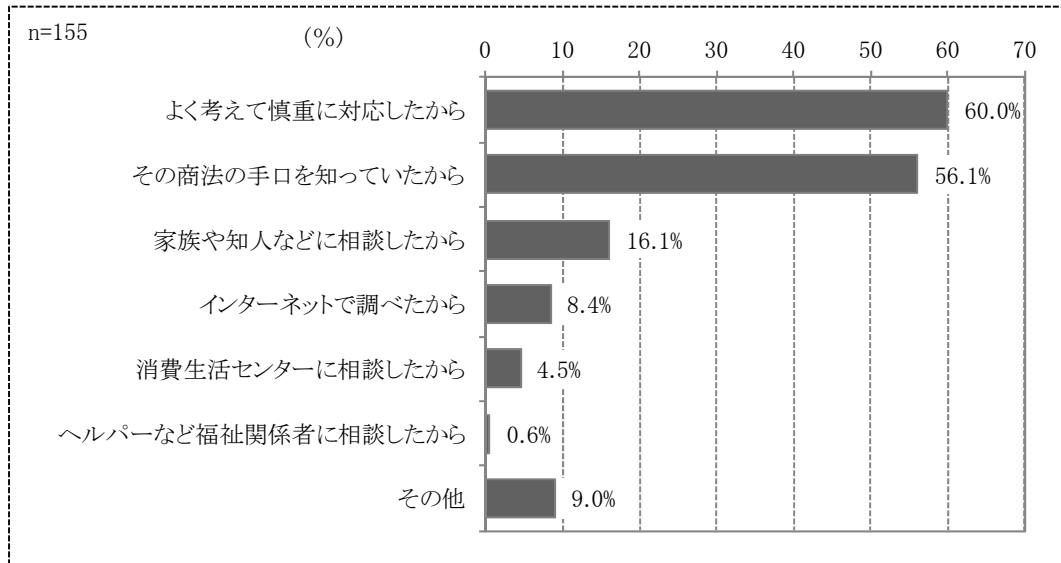
図表 2_33. 点検商法による被害時に何もしなかった理由 (男女別人数) (複数回答)



⑧「点検商法」により請求されたが実被害に至らなかった理由

点検商法により請求されたが実被害に至らなかった人（155人）の理由は、「その商法の手口を知っていたから」が56.1%で最も高く、「家族や知人に相談したから」が16.1%、次いで「インターネット等で調べたから」が8.4%、「消費生活センターに相談したから」が4.5%となっている。「その他」の具体的な内容は、「断ったから」などが挙げられた。

図表 2_34. 点検商法により請求されたが実被害に至らなかった理由（複数回答）



性別・年齢別にみると、男性 65～69 歳以外のすべての区分で「よく考えて慎重に対応したから」が 1 位となっており、女性 65～69 歳が 70.0%で最も高くなっている。男性 65～69 歳は「その商法の手口を知っていたから」が 71.4%と最も高くなっている。「その商法の手口を知っていたから」は男性（64.0%）が女性（36.4%）を 27.6 ポイント、「家族や知人などに相談したから」は女性（29.5%）が男性（10.8%）を 18.7 ポイント上回っていることから性別による差があると見られる。

家族構成別にみると、夫婦のみ以外のすべての区分で「よく考えて慎重に対応したから」が 1 位となっており、その他が 80.0%で最も高くなっている。夫婦のみは「その商法の手口を知っていたから」が 59.7%で他の区分より高くなっている。

図表 2_35. 点検商法により請求されたが実被害に至らなかった理由
(性別・年齢別、家族構成別) (複数回答)

(%)

N 数		その商法の手口を知っていたから	よく考えて慎重に対応したから	家族や知人などに相談したから	ヘルパーなど福祉関係者に相談したから	消費生活センターに相談したから	インターネットで調べたから	その他
【全体】	(155)	56.1	60.0	16.1	0.6	4.5	8.4	9.0
【性・年齢別】								
男性	(111)	64.0	56.8	10.8	0.9	6.3	9.9	9.0
60-64 歳	(48)	54.2	68.8	4.2	0.0	6.3	10.4	12.5
65-69 歳	(63)	71.4	47.6	15.9	1.6	6.3	9.5	6.3
女性	(44)	36.4	68.2	29.5	0.0	0.0	4.5	9.1
60-64 歳	(24)	29.2	66.7	33.3	0.0	0.0	4.2	8.3
65-69 歳	(20)	45.0	70.0	25.0	0.0	0.0	5.0	10.0
【家族構成別】								
ひとり暮らし	(21)	42.9	57.1	9.5	0.0	4.8	4.8	14.3
夫婦のみ	(62)	59.7	58.1	17.7	0.0	3.2	11.3	9.7
子と同居	(55)	56.4	60.0	20.0	1.8	5.5	9.1	5.5
親と同居	(7)	42.9	57.1	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0
その他	(10)	70.0	80.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.0

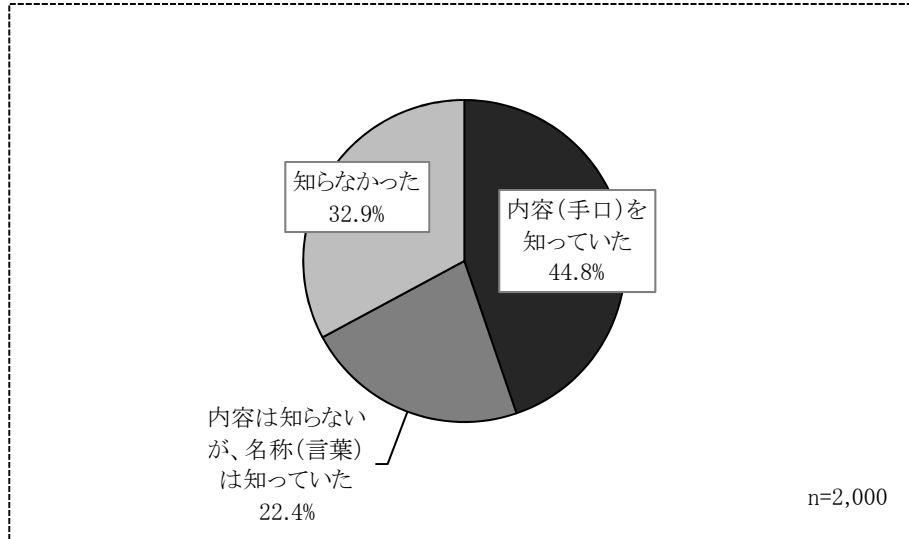
[注] 網掛けは各年齢・家族構成で第 1 位の項目

(4) 消費者被害の経験〔次々販売〕

①次々販売の認知

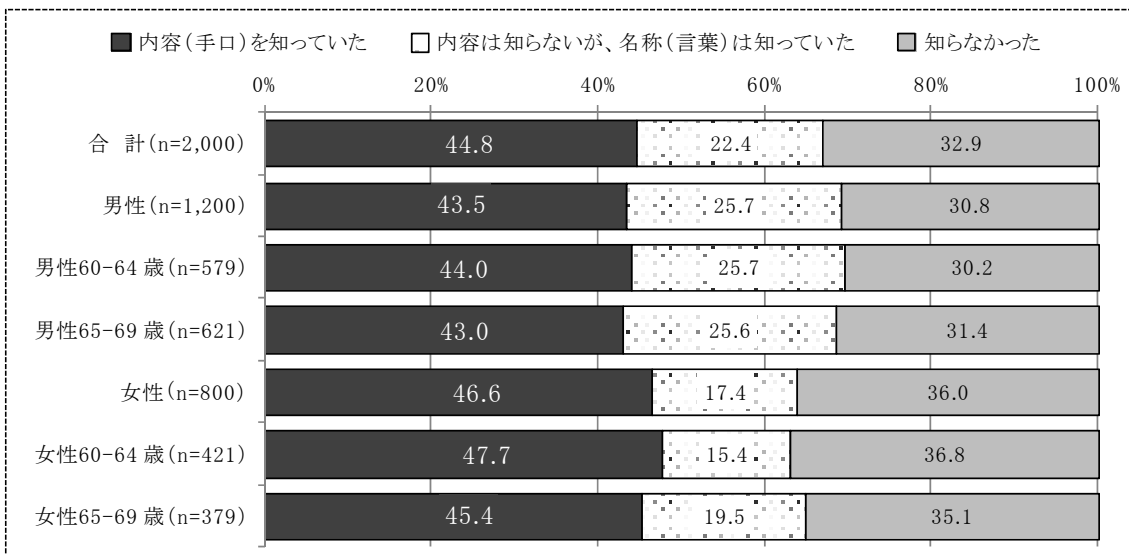
次々販売の認知は、「内容（手口）を知っていた」が44.8%、「内容は知らないが、名称（言葉）は知っていた」が22.4%、「知らなかった」が32.9%となっている。

図表 2_36. 次々販売の認知



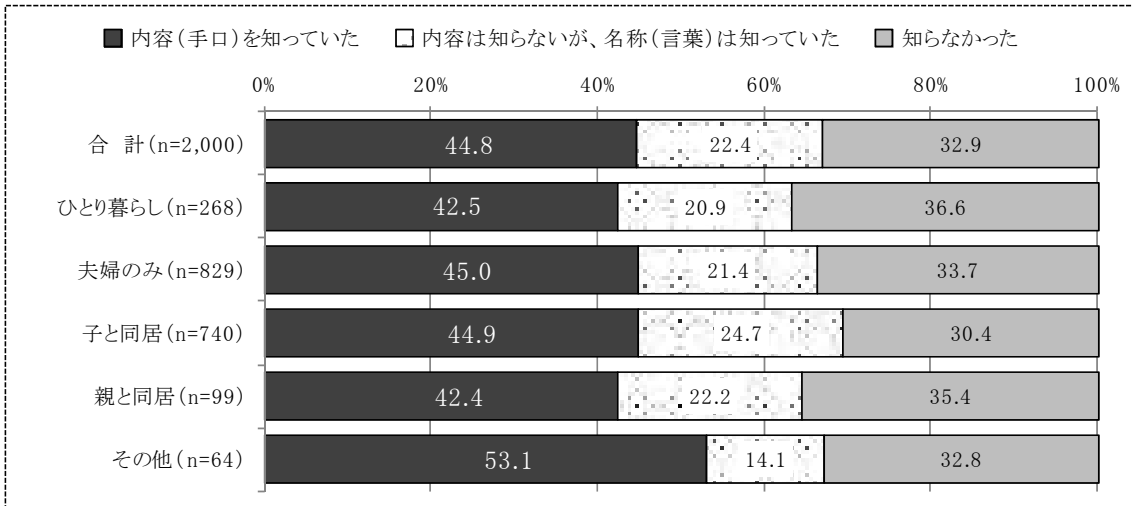
性別・年齢別にみると、「内容（手口）を知っていた」は、女性60～64歳が47.7%で最も高く、次いで女性65～69歳が45.4%、男性60～64歳が44.0%、男性65～69歳が43.0%となっている。また、「知らなかった」は、男性(30.8%)、女性(36.0%)ともに3割を超えており、女性60～64歳が36.8%と最も高くなっている。

図表 2_37. 次々販売の認知（性別・年齢別）



家族構成別にみると、「内容（手口）を知っていた」は、そのほか 53.1%で最も高く、次いで夫婦のみが 45.0%、子と同居が 44.9%となっている。また、「知らなかった」は、ひとり暮らしが 36.6%と最も高く、次いで親と同居が 35.4%、夫婦のみが 33.7%となっている。

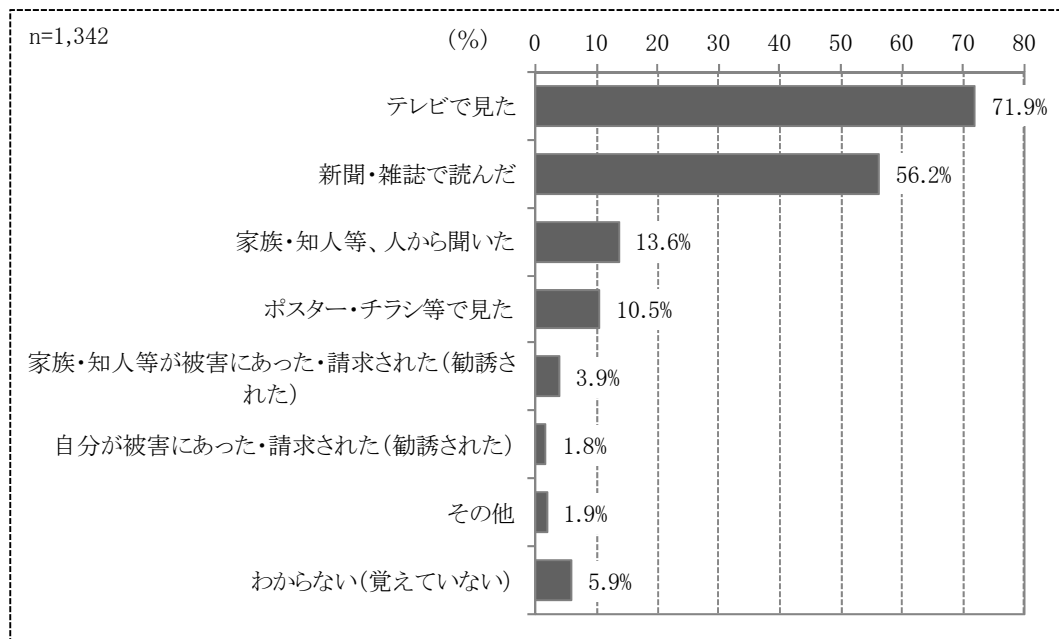
図表 2_38. 次々販売の認知（家族構成別）



② 「次々販売」の認知経路

次々販売という悪質商法を認知している人 (1,342 人) の認知経路は、「テレビで見た」が 71.9%で最も高く、次いで「新聞・雑誌で読んだ」が 56.2%、「家族・知人等、人から聞いた」が 13.6%、「ポスター・チラシ等で見た」が 10.5%となっている。

図表 2_39. 次々販売の認知経路（複数回答）



性別・年齢別にみると、男女ともにすべての年代で「テレビで見た」が1位となっており、女性60～64歳が76.7%で最も高くなっている。「新聞・雑誌で読んだ」は、男性(59.6%)が女性(50.6%)を9ポイント上回っており、性別による差が見られる。

家族構成別にみると、すべての区分で「テレビで見た」が1位となっており、ひとり暮らしが78.2%で最も高くなっている。次いで親と同居が75.0%、夫婦のみが71.3%、子と同居が70.3%となっている。

図表 2_40. 次々販売の認知経路（性別・年齢別、家族構成別）（複数回答）

(%)

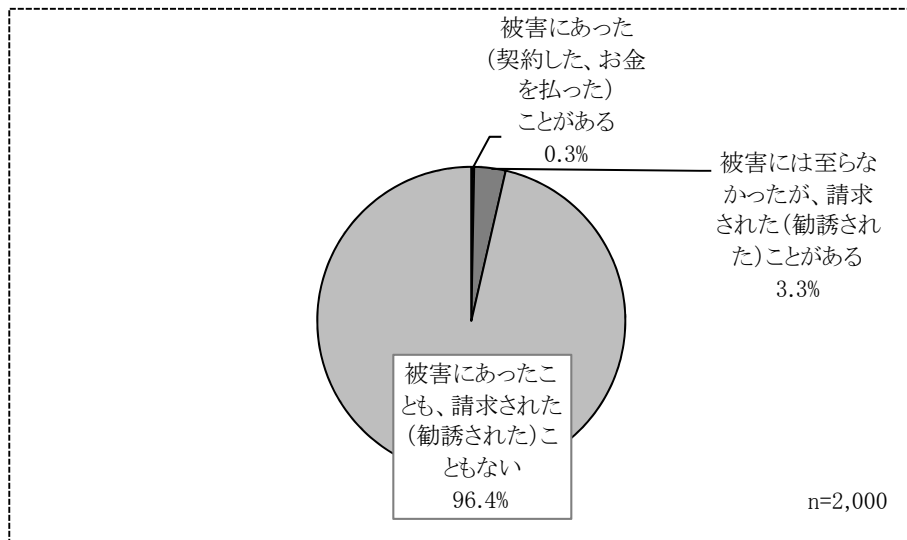
N数		新聞・雑誌で読んだ	ポスター・チラシ等で見た	テレビで見た	家族・知人等、人から聞いた	自分が被害にあった・請求された(勧誘された)	家族・知人等が被害にあった・請求(勧誘)された	その他	わからない(覚えていない)
【全体】	(1,342)	56.2	10.5	71.9	13.6	1.8	3.9	1.9	5.9
【性別・年齢別】									
男性	(830)	59.6	10.8	71.7	11.2	1.3	3.0	2.0	5.8
60-64歳	(404)	56.9	10.1	68.1	10.9	1.2	3.2	2.2	5.2
65-69歳	(426)	62.2	11.5	75.1	11.5	1.4	2.8	1.9	6.3
女性	(512)	50.6	10.0	72.3	17.4	2.5	5.5	1.6	6.1
60-64歳	(266)	49.6	7.9	76.7	14.7	3.4	4.9	0.4	6.0
65-69歳	(246)	51.6	12.2	67.5	20.3	1.6	6.1	2.8	6.1
【家族構成別】									
ひとり暮らし	(170)	35.9	7.1	78.2	12.9	2.9	5.9	2.4	5.9
夫婦のみ	(550)	60.4	11.3	71.3	13.6	1.1	3.3	1.6	5.1
子と同居	(515)	56.7	11.3	70.3	14.8	2.1	3.9	2.1	7.0
親と同居	(64)	65.6	7.8	75.0	4.7	3.1	3.1	0.0	0.0
その他	(43)	62.8	9.3	69.8	14.0	0.0	7.0	2.3	11.6

[注] 網掛けは各年齢・家族構成で第1位の項目

③ 「次々販売」の被害経験

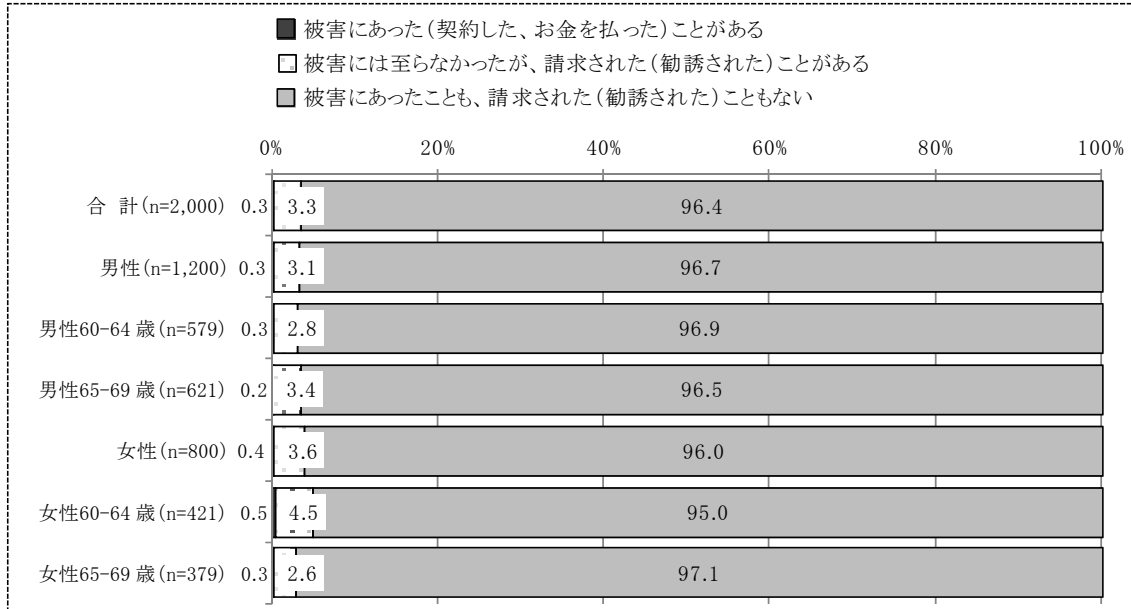
次々販売による被害経験は、「被害にあった（契約した・お金を払った）ことがある」が 0.3%、「被害には至らなかったが、請求された（勧誘された）ことがある」が 3.3%、「被害にあったことも、請求された（勧誘された）こともない」が 96.4% となっており、被害経験のある人は 6 人であった。

図表 2_41. 次々販売の被害経験



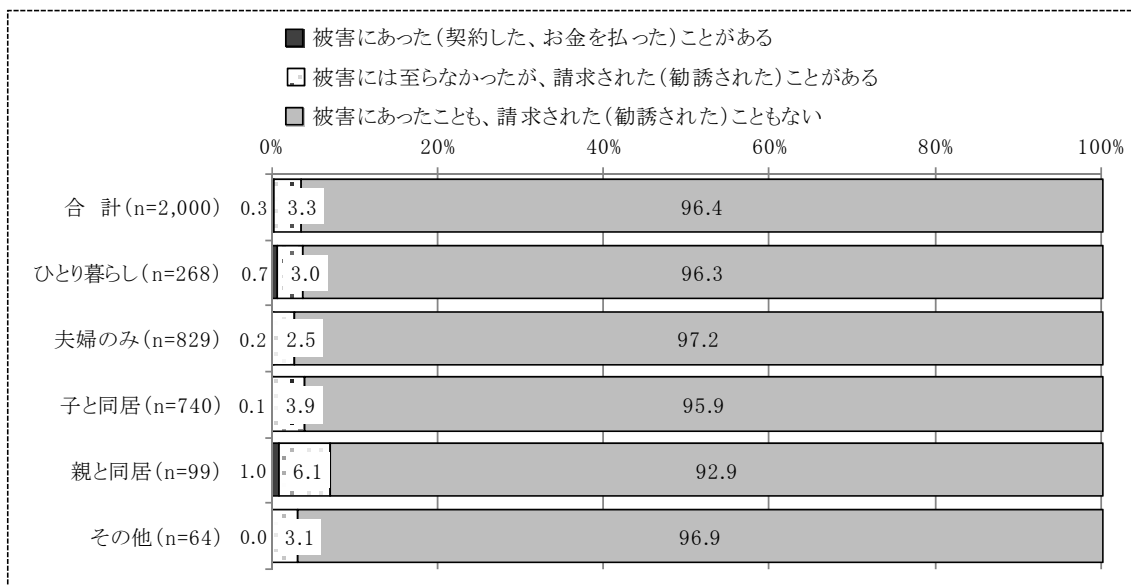
性別・年齢別にみると、「被害にあった（契約した・お金を払った）ことがある」は、男性 60～64 歳（0.3%）、男性 65～69 歳（0.2%）、女性 60～64 歳（0.5%）、女性 65～69 歳（0.3%）と性別、年代ともに 1%を切っていた。

図表 2_42. 次々販売による被害経験（性別・年齢別）



家族構成別にみると、「被害にあった（契約した・お金を払った）ことがある」は、親と同居が 1.0%で最も高く、次いでひとり暮らしが 0.7%、夫婦のみが 0.2%、子と同居が 0.1%となっている。「被害には至らなかったが、請求された（勧誘された）ことがある」は、親と同居が 6.1%と最も高く、次いで子と同居が 3.9%、ひとり暮らしが 3.0%、夫婦のみが 2.5%となっている。

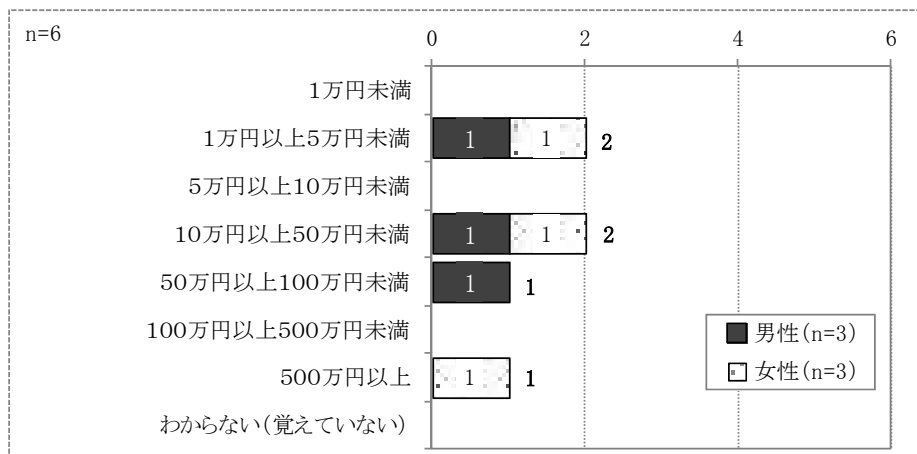
図表 2_43. 次々販売による被害経験（家族構成別）



④ 「次々販売」による被害金額

次々販売による被害経験者6人（男性3人、女性3人）の被害金額は、「1万円以上5万円未満」と「10万円以上50万円未満」がそれぞれ2人（男性1人、女性1人）、次いで「50万円以上100万円未満」が男性1人、「500万円以上」が女性1人となっている。「1万円以上5万円未満」から「500万円以上」と被害金額の差が大きい。

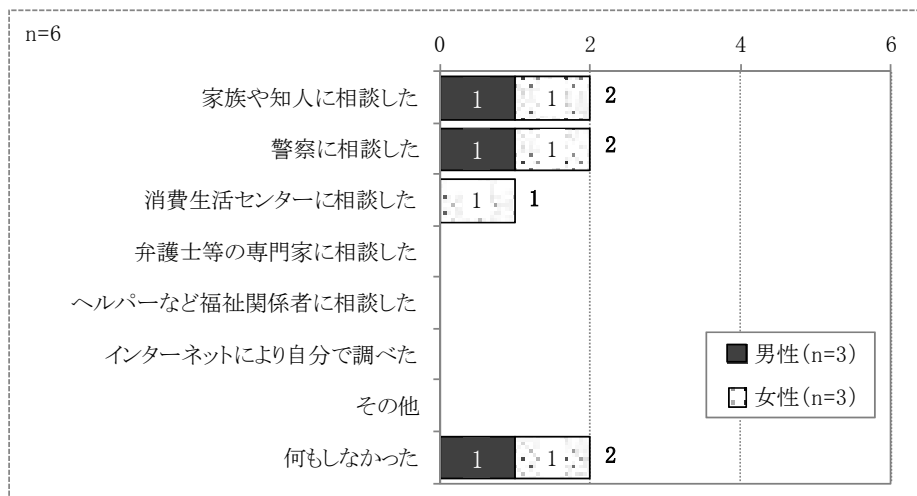
図表 2_44. 次々販売による被害金額（男女別人数）



⑤ 「次々販売」による被害後の行動

次々販売による被害経験者6人（男性3人、女性3人）の被害後の行動は、「家族や知人に相談した」、「警察に相談した」、「何もしなかった」が2人（男性1人、女性1人）で最も多くなっている。それ以外に「消費生活センターに相談した」が女性1人となっていた。

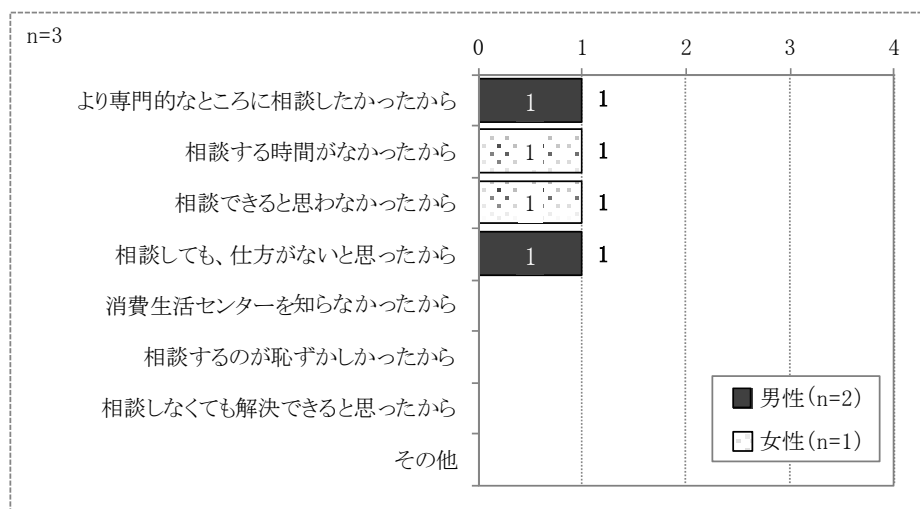
図表 2_45. 次々販売による被害後の行動（男女別人数）（複数回答）



⑥ 「次々販売」による被害時に消費生活センターへ相談しなかった理由

次々販売による被害経験者のうち被害時に消費生活センターへ相談しなかった 3 人（男性 2 人、女性 1 人）の理由は、「より専門的なところに相談したかったから」と「相談しても、仕方がないと思ったから」がそれぞれ男性 1 人、「相談する時間がなかったから」と「相談できると思わなかったから」がそれぞれ女性 1 人となっている。

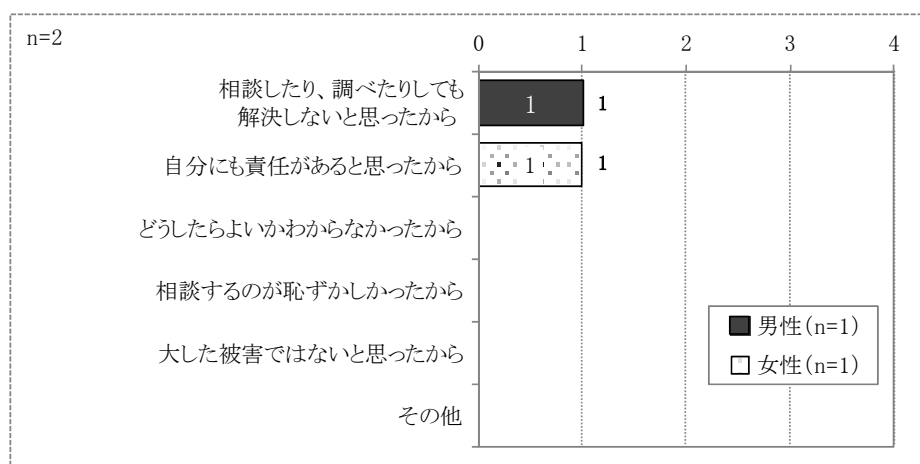
図表 2_46. 次々販売による被害時に消費生活センターへ相談しなかった理由
（男女別人数）（複数回答）



⑦ 「次々販売」による被害時に何もしなかった理由

次々販売による被害経験者のうち被害時に何もしなかった 2 人（男性 1 人、女性 1 人）の理由は、「相談したり、調べたりしても解決しないと思ったから」が男性 1 人、「自分にも責任があると思ったから」が女性 1 人となっている。

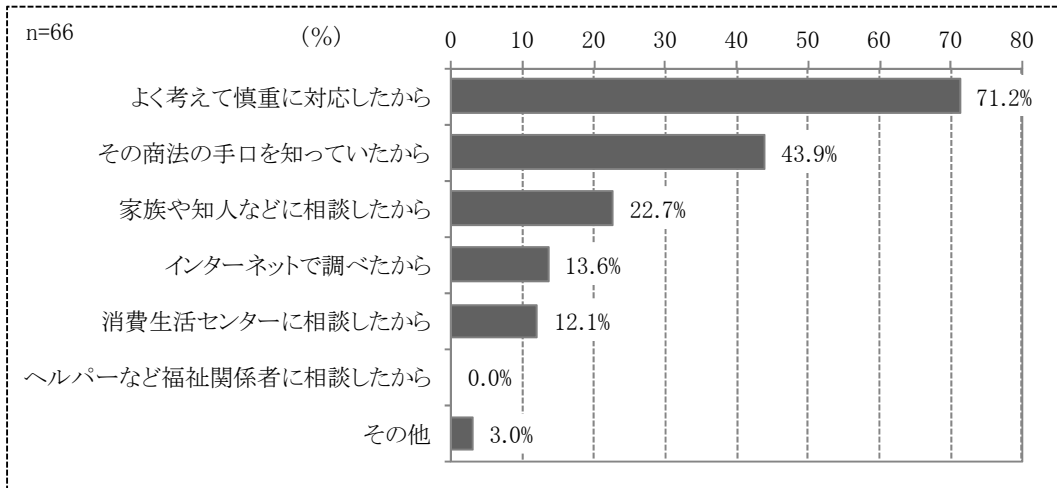
図表 2_47. 次々販売による被害時に何もしなかった理由（男女別人数）（複数回答）



⑧ 「次々販売」により請求されたが実被害に至らなかった理由

次々販売により請求されたが実被害に至らなかった人（66人）の理由は、「よく考えて慎重に対応したから」が71.2%で最も高く、次いで「その商法の手口を知っていたから」が43.9%、「家族や知人に相談したから」が22.7%、「インターネット等で調べたから」が13.6%、「消費生活センターに相談したから」が12.1%となっている。「その他」の具体的な内容は、「無視した」などが挙げられた。

図表 2_48. 次々販売により請求されたが実被害に至らなかった理由（複数回答）



性別・年齢別にみると、男女ともにすべての年代で「よく考えて慎重に対応したから」が1位となっており、女性65～69歳が100.0%で最も高くなっている。「インターネットで調べたから」は男性（24.3%）が2割を超えているのに対し、女性は0%と性別による差が見られる。

家族構成別にみると、すべての区分で「よく考えて慎重に対応したから」が1位となっており、ひとり暮らしが100.0%で最も高くなっている。夫婦のみは「その商法の手口を知っていたから」が52.4%で他の区分より高くなっている。

図表 2_49. 次々販売により請求されたが実被害に至らなかった理由
(性別・年齢別、家族構成別) (複数回答)

(%)

		N数	その商法の手口を知っていたから	よく考えて慎重に対応したから	家族や知人などに相談したから	ヘルパーなど福祉関係者に相談したから	消費生活センターに相談したから	調べたから インターネットで	その他
【全体】		(66)	43.9	71.2	22.7	0.0	12.1	13.6	3.0
【性・年齢別】									
男性		(37)	45.9	64.9	21.6	0.0	21.6	24.3	2.7
60-64歳		(16)	43.8	75.0	18.8	0.0	18.8	18.8	6.3
65-69歳		(21)	47.6	57.1	23.8	0.0	23.8	28.6	0.0
女性		(29)	41.4	79.3	24.1	0.0	0.0	0.0	3.4
60-64歳		(19)	36.8	68.4	36.8	0.0	0.0	0.0	5.3
65-69歳		(10)	50.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
【家族構成別】									
ひとり暮らし		(8)	37.5	100.0	0.0	0.0	12.5	12.5	0.0
夫婦のみ		(21)	52.4	66.7	14.3	0.0	14.3	9.5	4.8
子と同居		(29)	44.8	69.0	37.9	0.0	13.8	17.2	0.0
親と同居		(6)	16.7	66.7	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7
その他		(2)	50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0

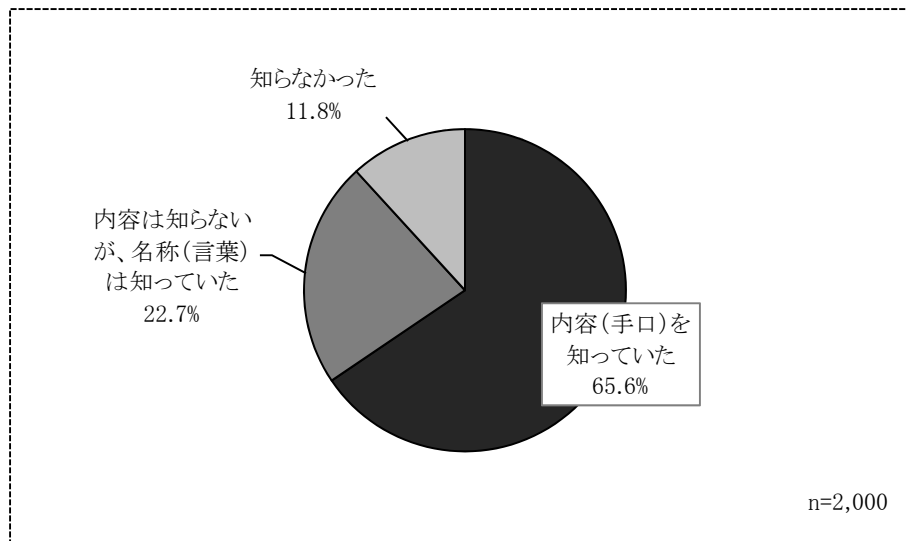
[注] 網掛けは各年齢・家族構成で第1位の項目

(5) 消費者被害の経験〔利殖商法〕

①利殖商法の認知

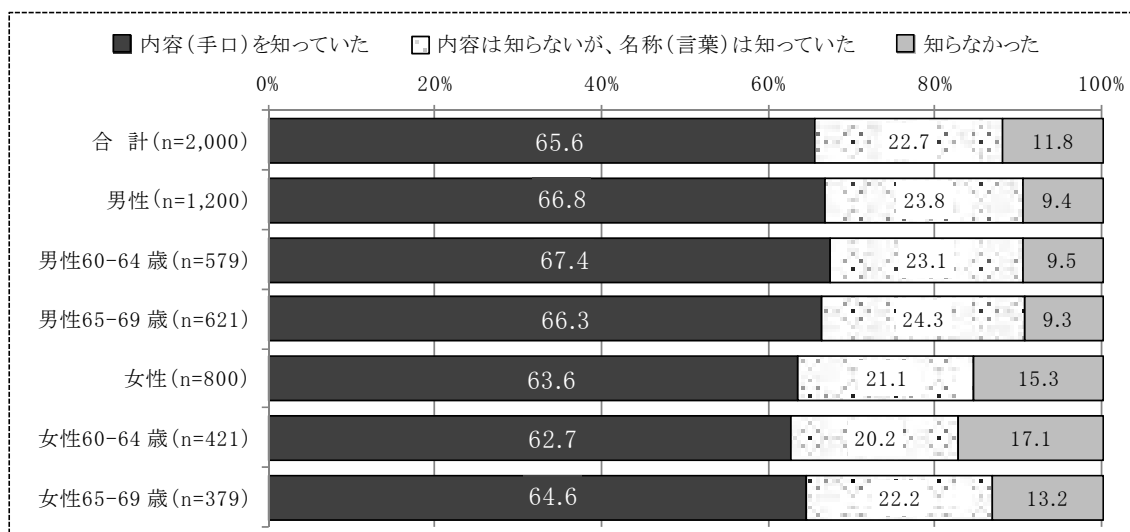
利殖商法の認知は、「内容（手口）を知っていた」が65.6%、「内容は知らないが、名称（言葉）は知っていた」が22.7%、「知らなかった」が11.8%となっている。

図表 2_50. 利殖商法の認知



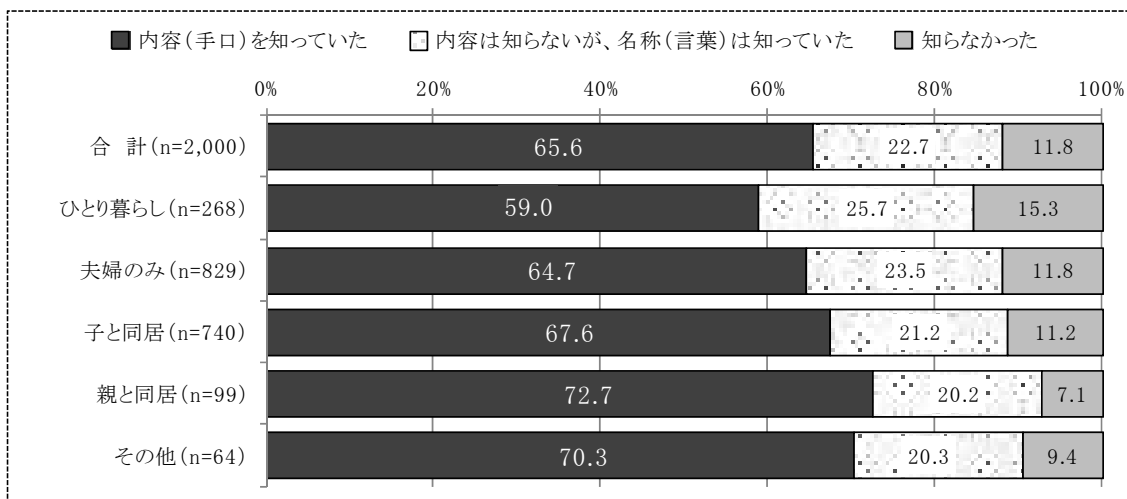
性別・年齢別にみると、「内容（手口）を知っていた」は、男性60～64歳が67.4%で最も高く、次いで男性65～69歳が66.3%、女性65～69歳が64.6%、女性60～64歳が62.7%となっている。また、「知らなかった」は、女性60～64歳（17.1%）、女性65～69歳（13.2%）で1割を超えている。

図表 2_51. 利殖商法の認知（性別・年齢別）



家族構成別にみると、「内容（手口）を知っていた」は、親と同居が 72.7%で最も高く、次いでその他が 70.3%、子と同居が 67.6%、夫婦のみが 64.7%、ひとり暮らしが 59.0%となっている。また、「知らなかった」は、ひとり暮らし（15.3%）、夫婦のみ（11.8%）、子と同居（11.2%）で 1 割を超えている。

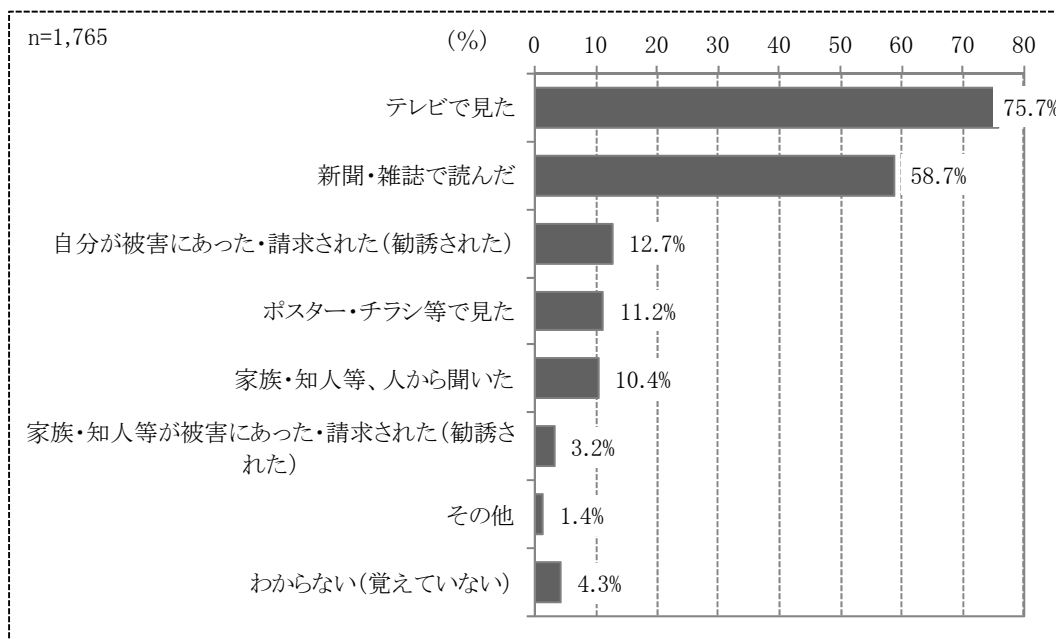
図表 2_52. 利殖商法の認知（家族構成別）



② 「利殖商法」の認知経路

利殖商法という悪質商法を認知している人（1,765 人）の認知経路は、「テレビで見た」が 75.7%で最も高く、次いで「新聞・雑誌で読んだ」が 58.7%、「自分が被害にあった・請求された（勧誘された）」が 12.7%、「ポスター・チラシ等で見た」が 11.2%、「家族・知人等、人から聞いた」が 10.4%となっている。

図表 2_53. 利殖商法の認知経路（複数回答）



性別・年齢別にみると、男女ともにすべての年代で「テレビで見た」が1位となっており、女性60～64歳が81.7%で最も高くなっている。「新聞・雑誌で読んだ」は男性(62.7%)が女性(52.2%)を10.5ポイント上回り、性別による差がみられる。

家族構成別にみると、その他以外の区分では「テレビで見た」が1位となっており、夫婦のみが76.7%で最も高くなっている。その他は「新聞・雑誌で読んだ」が1位となっている。

図表 2_54. 利殖商法の認知経路(性別・年齢別、家族構成別)(複数回答)

(%)

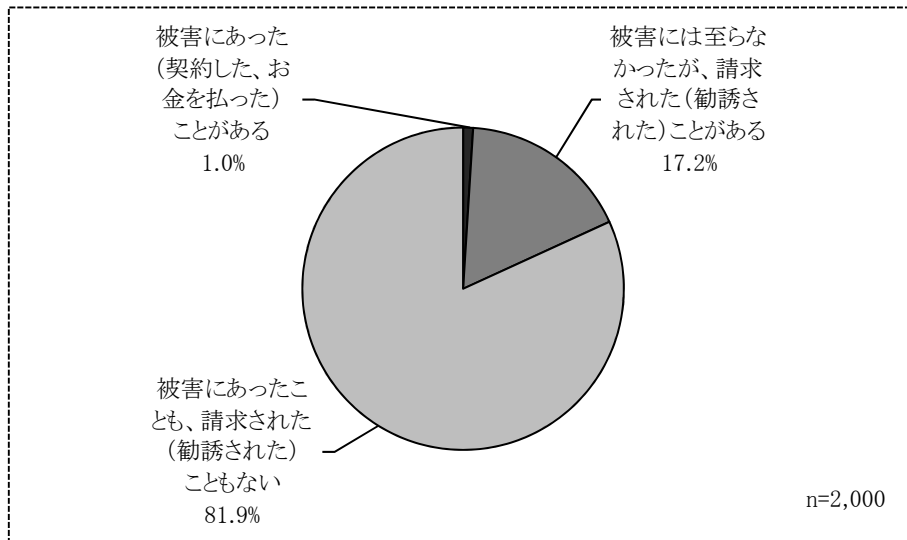
N数		新聞・雑誌で読んだ	ポスター・チラシ等で見た	テレビで見た	家族・知人等、人から聞いた	自分が被害にあった・請求された(勧誘された)	家族・知人等が被害にあった・請求(勧誘)された	その他	わからない(覚えていない)
【全体】	(1,765)	58.7	11.2	75.7	10.4	12.7	3.2	1.4	4.3
【性別・年齢別】									
男性	(1,087)	62.7	11.0	74.0	8.6	12.7	2.7	1.6	4.4
60-64歳	(524)	59.5	9.2	72.5	8.0	13.5	3.6	1.7	4.2
65-69歳	(563)	65.7	12.8	75.3	9.1	11.9	1.8	1.4	4.6
女性	(678)	52.2	11.5	78.5	13.3	12.8	4.1	1.2	4.1
60-64歳	(349)	51.9	8.9	81.7	12.3	13.5	5.7	0.3	3.7
65-69歳	(329)	52.6	14.3	75.1	14.3	12.2	2.4	2.1	4.6
【家族構成別】									
ひとり暮らし	(227)	42.3	12.3	74.9	11.5	15.0	3.5	1.8	7.5
夫婦のみ	(731)	62.7	12.2	76.7	10.4	11.6	2.7	1.4	2.7
子と同居	(657)	59.2	10.5	76.4	10.2	13.1	3.7	1.4	4.6
親と同居	(92)	59.8	7.6	73.9	6.5	12.0	1.1	1.1	6.5
その他	(58)	65.5	8.6	60.3	13.8	15.5	6.9	1.7	5.2

[注]網掛けは各年齢・家族構成で第1位の項目

③ 「利殖商法」の被害経験

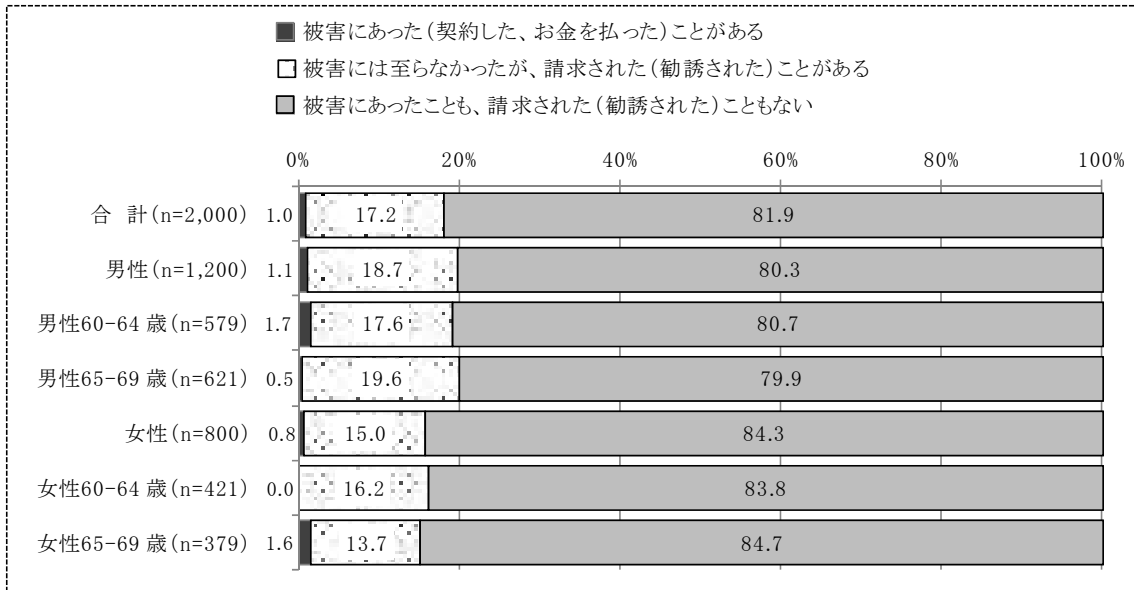
利殖商法による被害経験は、「被害にあった（契約した・お金を払った）ことがある」が1.0%、「被害には至らなかったが、請求された（勧誘された）ことがある」が17.2%、「被害にあったことも、請求された（勧誘された）こともない」が81.9%となっており、被害経験のある人は19人であった。

図表 2_55. 利殖商法の被害経験



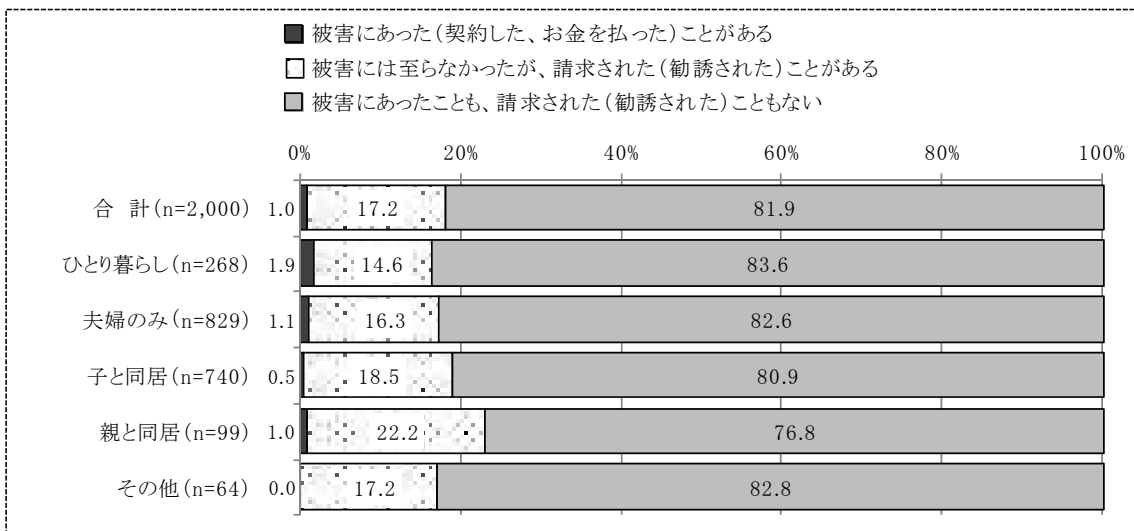
性別・年齢別にみると、「被害にあった（契約した・お金を払った）ことがある」は、男性 60～64 歳が 1.7% で最も高く、次いで女性 65～69 歳が 1.6%、男性 65～69 歳が 0.5% となっている。「被害には至らなかったが、請求された（勧誘された）ことがある」は、男性 65～69 歳が 19.6% と最も高く、次いで男性 60～64 歳が 17.6%、女性 60～64 歳が 16.2% となっている。

図表 2_56. 利殖商法による被害経験（性別・年齢別）



家族構成別にみると、「被害にあった（契約した・お金を払った）ことがある」は、ひとり暮らしが 1.9% で最も高く、次いで夫婦のみが 1.1%、親と同居が 1.0% となっている。「被害には至らなかったが、請求された（勧誘された）ことがある」は、親と同居（22.2%）が 2 割を超えている。

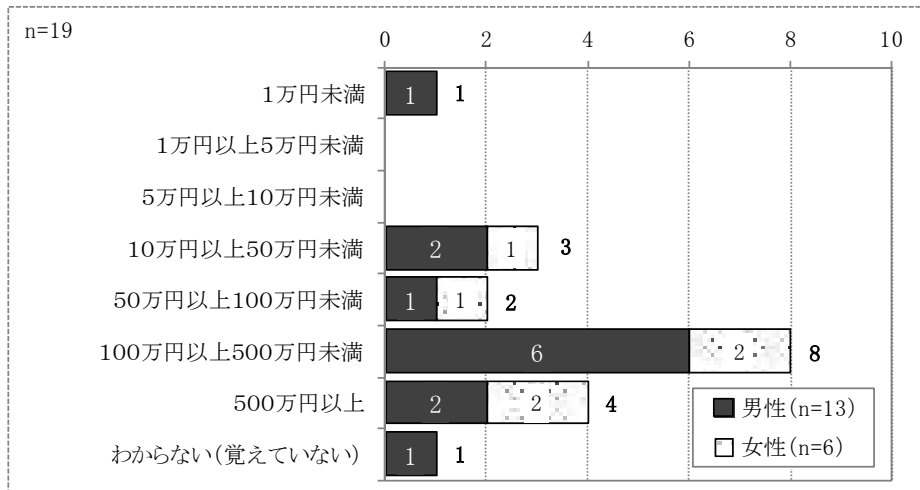
図表 2_57. 利殖商法による被害経験（家族構成別）



④ 「利殖商法」による被害金額

利殖商法による被害経験者 19 人（男性 13 人、女性 6 人）の被害金額は、「100 万円以上 500 万円未満」が 8 人（男性 6 人、女性 2 人）で最も多く、次いで「500 万円以上」が 4 人（男性 2 人、女性 2 人）、「10 万円以上 50 万円未満」が 3 人（男性 2 人、女性 1 人）となっており、10 万円以上の高額な被害者数は 17 人（男性 11 人、女性 6 人）となっている。

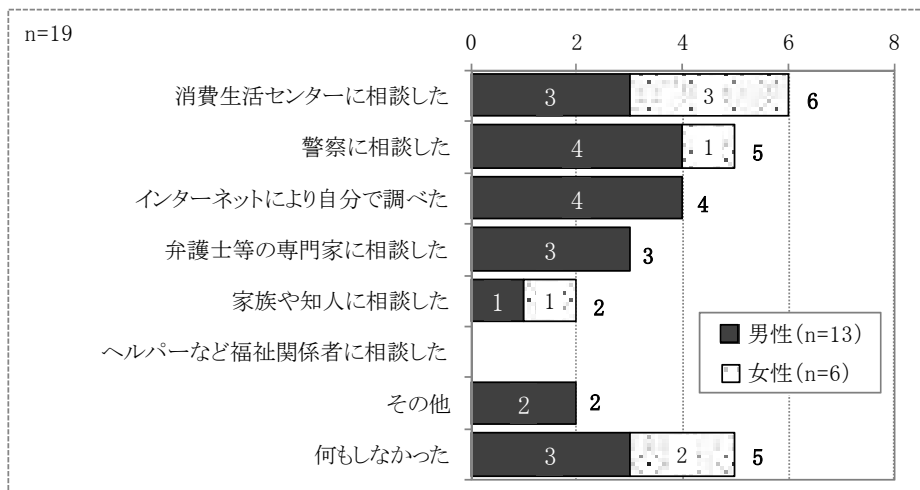
図表 2_58. 利殖商法による被害金額（男女別人数）



⑤ 「利殖商法」による被害後の行動

利殖商法による被害経験者 19 人（男性 13 人、女性 6 人）の被害後の行動は、「消費生活センターに相談した」が 6 人（男性 3 人、女性 3 人）で最も多くなっている。次いで、「警察に相談した」が 5 人（男性 4 人、女性 1 人）、「インターネットにより自分で調べた」が男性 4 人、「弁護士等の専門家に相談した」が男性 3 人、「家族や知人に相談した」が男女各 1 人となっている。

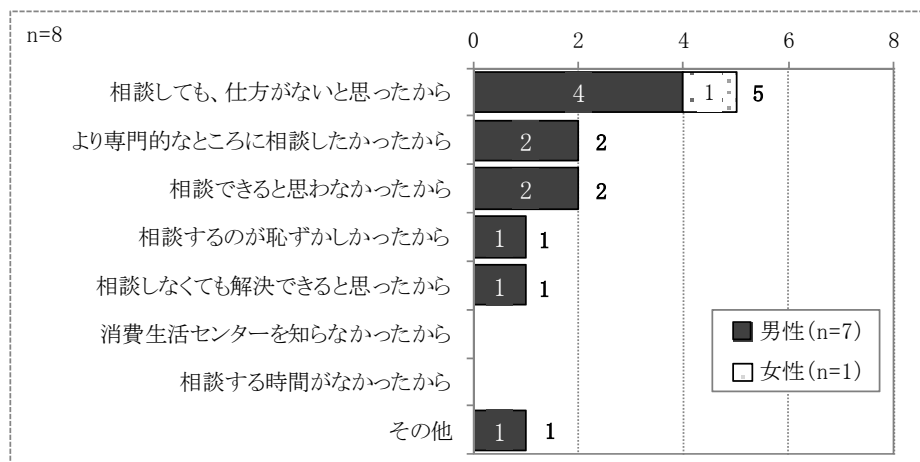
図表 2_59. 利殖商法による被害後の行動（男女別人数）（複数回答）



⑥ 「利殖商法」による被害時に消費生活センターへ相談しなかった理由

利殖商法による被害経験者のうち被害時に消費生活センターへ相談しなかった 8 人（男性 7 人、女性 1 人）の理由は、「相談しても仕方がないと思ったから」が 5 人（男性 4 人、女性 1 人）で最も多く、「より専門的なところに相談したかったから」と「相談できると思わなかったから」がそれぞれ男性 2 人、「相談するのが恥ずかしかったから」と「相談しなくても解決できと思ったから」がそれぞれ男性 1 人となっている。

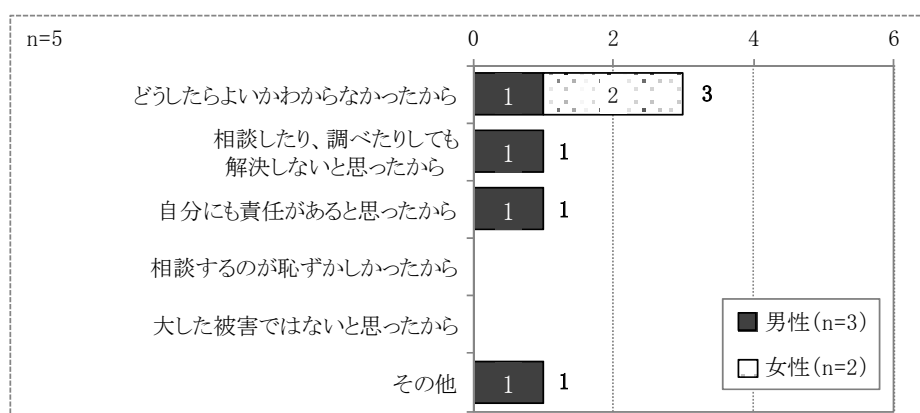
図表 2_60. 利殖商法による被害時に消費生活センターへ相談しなかった理由
（男女別人数）（複数回答）



⑦ 「利殖商法」による被害時に何もしなかった理由

利殖商法による被害経験者のうち被害時に何もしなかった 5 人（男性 3 人、女性 2 人）の理由は、「どうしたらよいかわからなかったから」が 3 人（男性 1 人、女性 2 人）で最も多く、次いで「相談したり調べたりしても解決しないと思ったから」と「自分にも責任があると思ったから」がそれぞれ男性 1 人となっている。

図表 2_61. 利殖商法による被害時に何もしなかった理由（男女別人数）（複数回答）

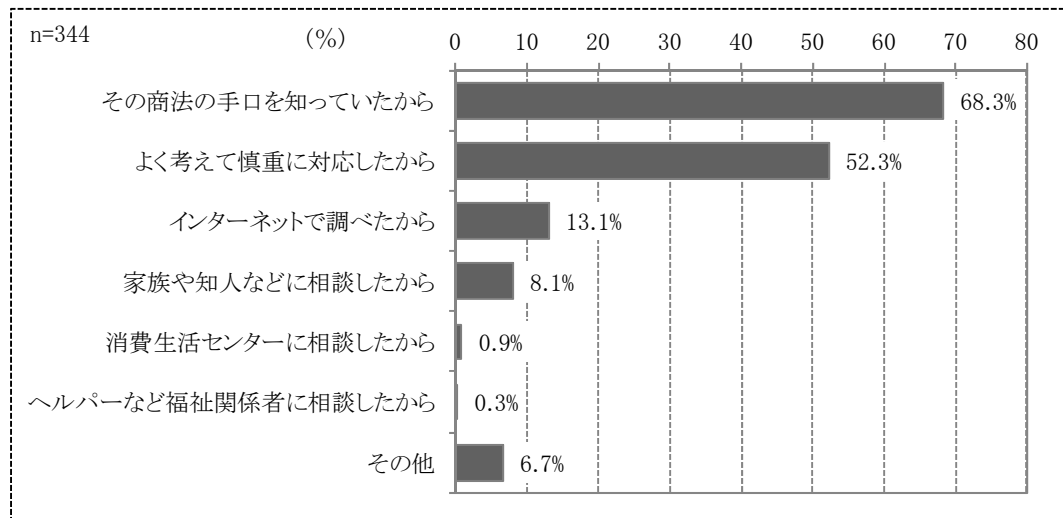


⑧ 「利殖商法」により請求されたが実被害に至らなかった理由

利殖商法により請求されたが実被害に至らなかった人（344人）の理由は、「その商法の手口を知っていたから」が68.3%で最も高く、次いで「よく考えて慎重に対応したから」が52.3%、「インターネット等で調べたから」が13.1%、「家族や知人に相談したから」が8.1%、「消費生活センターに相談したから」が0.9%となっている。

「その他」の具体的な内容は、「話に応じない、乗らない」、「断ったから」などが挙げられた。

図表 2_62. 利殖商法により請求されたが実被害に至らなかった理由（複数回答）



性別・年齢別にみると、男女ともにすべての年代で「その商法の手口を知っていたから」が1位となっており、男性65～69歳が73.0%で最も高くなっている。「よく考えて慎重に対応したから」は、男性はすべての年代で5割台、女性は60～64歳で5割台となっている。

家族構成別にみると、すべての区分で「その商法の手口を知っていたから」が1位となっており、その他が72.7%で最も高くなっている。親と同居は「家族や知人等に相談したから」が18.2%で他の区分より高くなっている。

図表 2_63. 利殖商法により請求されたが実被害に至らなかった理由
(性別・年齢別、家族構成別) (複数回答)

(%)

N数		その商法の手口を知っていたから	よく考えて慎重に対応したから	家族や知人などに相談したから	ヘルパーなど福祉関係者に相談したから	消費生活センターに相談したから	インターネットで調べたから	その他
【全体】	(344)	68.3	52.3	8.1	0.3	0.9	13.1	6.7
【性別・年齢別】								
男性	(224)	70.1	53.6	5.8	0.0	0.9	13.8	8.0
60-64歳	(102)	66.7	52.0	5.9	0.0	1.0	19.6	8.8
65-69歳	(122)	73.0	54.9	5.7	0.0	0.8	9.0	7.4
女性	(120)	65.0	50.0	12.5	0.8	0.8	11.7	4.2
60-64歳	(68)	61.8	54.4	16.2	0.0	1.5	16.2	2.9
65-69歳	(52)	69.2	44.2	7.7	1.9	0.0	5.8	5.8
【家族構成別】								
ひとり暮らし	(39)	69.2	53.8	7.7	0.0	0.0	17.9	5.1
夫婦のみ	(135)	66.7	51.1	7.4	0.7	0.7	9.6	3.7
子と同居	(137)	70.1	56.2	8.0	0.0	0.7	15.3	8.8
親と同居	(22)	63.6	40.9	18.2	0.0	4.5	4.5	18.2
その他	(11)	72.7	36.4	0.0	0.0	0.0	27.3	0.0

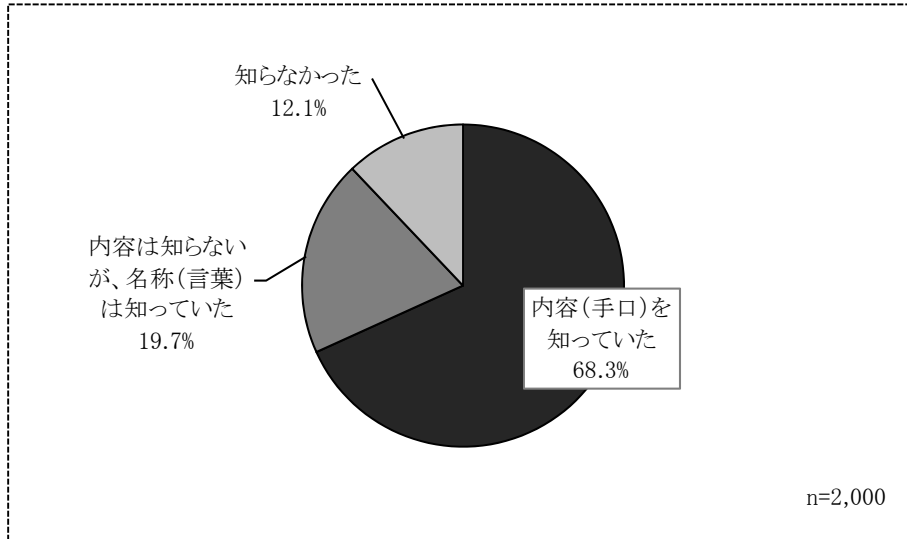
[注] 網掛けは各年齢・家族構成で第1位の項目

(6) 消費者被害の経験〔催眠(SF)商法〕

①催眠(SF)商法の認知

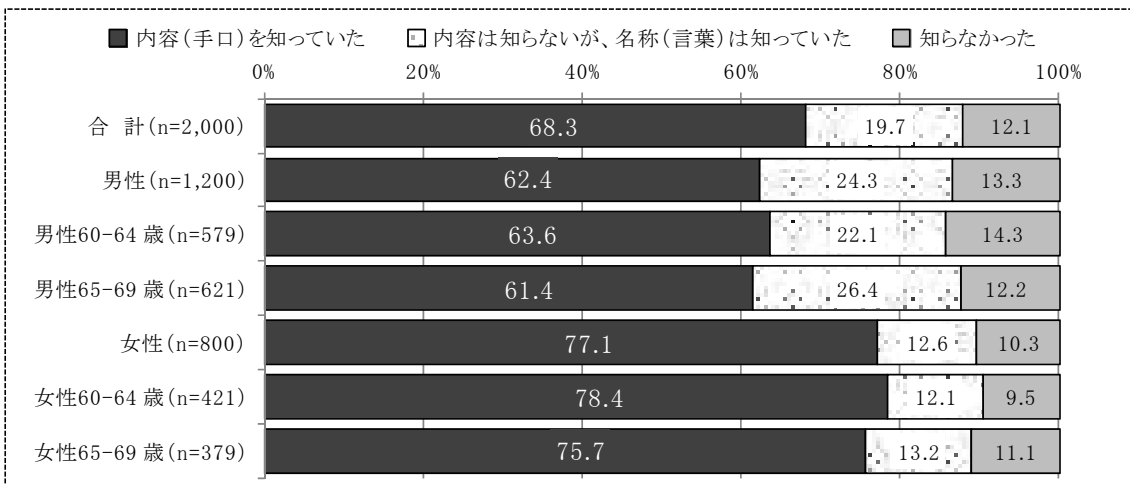
催眠(SF)商法の認知は、「内容(手口)を知っていた」が68.3%、「内容は知らないが、名称(言葉)は知っていた」が19.7%、「知らなかった」が12.1%となっている。

図表 2_64. 催眠(SF)商法の認知



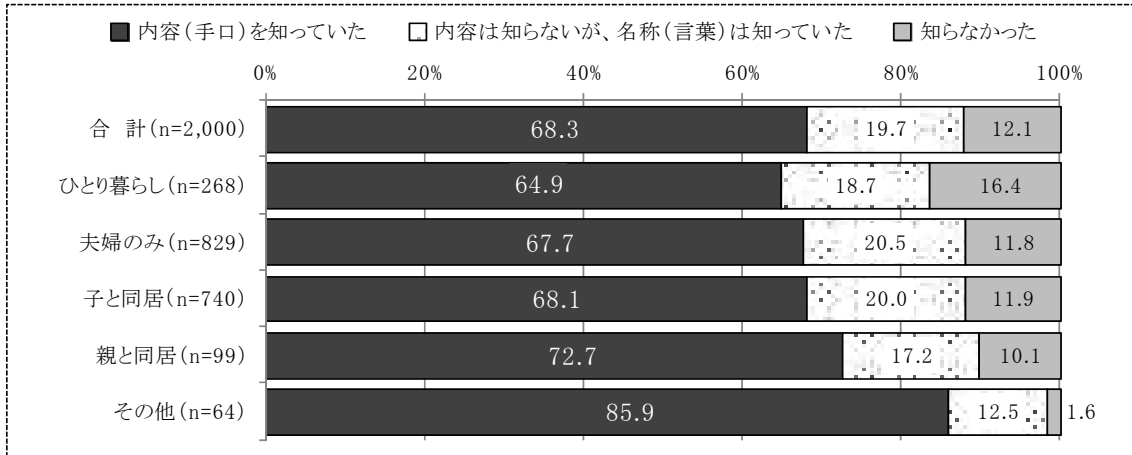
性別・年齢別にみると、「内容(手口)を知っていた」は、女性60～64歳が78.4%で最も高く、次いで女性65～69歳が75.7%、男性60～64歳が63.6%、男性65～69歳が61.4%となっている。女性(77.1%)が男性(62.4%)を14.7ポイント上回り、性別による差が見られる。また、「知らなかった」は、男性60～64歳(14.3%)、男性65～69歳(12.2%)、女性65～69歳(11.1%)で1割を超えている。

図表 2_65. 催眠(SF)商法の認知(性別・年齢別)



家族構成別にみると、「内容（手口）を知っていた」は、そのほかで 85.9% で最も高く、次いで親と同居が 72.7%、子と同居が 68.1% となっている。また、「知らなかった」は、ひとり暮らしが 16.4% と最も高く、次いで子と同居が 11.9%、夫婦のみが 11.8% となっている。

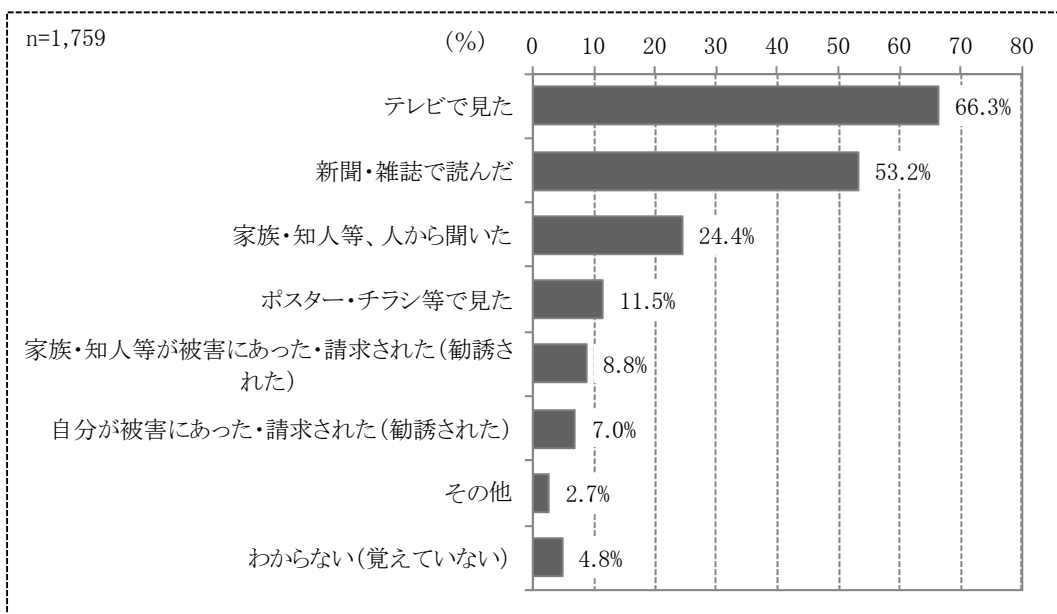
図表 2_66. 催眠(SF)商法の認知（家族構成別）



② 「催眠(SF)商法」の認知経路

催眠(SF)商法という悪質商法を認知している人(1,759人)の認知経路は、「テレビで見た」が 66.3% で最も高く、次いで「新聞・雑誌で読んだ」が 53.2%、「家族・知人等、人から聞いた」が 24.4%、「ポスター・チラシ等で見た」が 11.5%、「家族・知人等が被害にあった・請求された(勧誘された)」が 8.8%、「自分が被害にあった・請求された(勧誘された)」が 7.0%、となっている。

図表 2_67. 催眠(SF)商法の認知経路（複数回答）



性別・年齢別にみると、男女ともにすべての年代で「テレビで見た」が1位となっており、男性60～64歳が69.8%で最も高くなっている。「自分が被害にあった・請求された（勧誘された）」と「家族・知人等が被害にあった・請求された（勧誘された）」は、女性はすべての年代で1割を超えている。「自分が被害にあった・請求された（勧誘された）」は女性（12.0%）が男性（3.6%）を8.4ポイント、「家族・知人等が被害にあった・請求された（勧誘された）」は女性（12.1%）が男性（6.4%）を5.7ポイント上回っており、性別による差が見られる。

家族構成別にみると、すべての区分で「テレビで見た」が1位となっており、親と同居が69.7%で最も高くなっている。

図表 2_68. 催眠(SF)商法の認知経路（性別・年齢別、家族構成別）（複数回答）

(%)

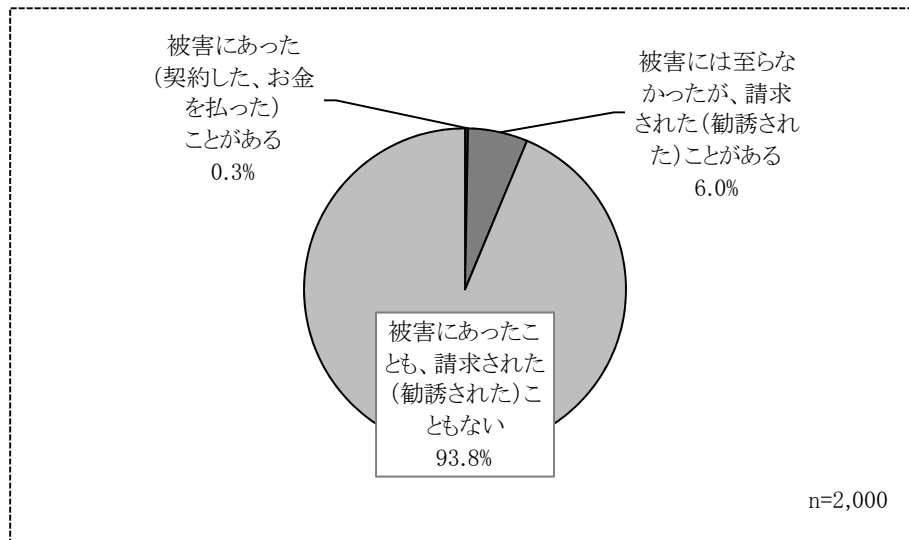
N数		新聞・雑誌で読んだ	ポスター・チラシ等で見た	テレビで見た	家族・知人等、人から聞いた	自分が被害にあった・請求された（勧誘された）	家族・知人等が被害にあった・請求（勧誘）された	その他	わからない（覚えていない）
【全体】	(1,759)	53.2	11.5	66.3	24.4	7.0	8.8	2.7	4.8
【性・年齢別】									
男性	(1,041)	57.7	11.0	69.2	16.8	3.6	6.4	2.9	3.9
60-64歳	(496)	53.0	10.9	69.8	14.9	4.4	7.7	3.8	3.4
65-69歳	(545)	62.0	11.0	68.6	18.5	2.8	5.3	2.0	4.4
女性	(718)	46.7	12.4	62.1	35.4	12.0	12.1	2.5	6.0
60-64歳	(381)	44.9	8.9	68.5	33.6	11.3	10.8	2.4	4.5
65-69歳	(337)	48.7	16.3	54.9	37.4	12.8	13.6	2.7	7.7
【家族構成別】									
ひとり暮らし	(224)	41.5	11.6	66.5	22.8	9.8	7.6	3.6	7.6
夫婦のみ	(731)	56.9	12.2	66.5	24.2	6.4	8.3	2.5	3.4
子と同居	(652)	53.5	10.7	66.1	25.5	7.1	9.5	2.0	5.8
親と同居	(89)	50.6	10.1	69.7	25.8	3.4	10.1	7.9	4.5
その他	(63)	52.4	14.3	60.3	19.0	7.9	7.9	3.2	0.0

[注] 網掛けは各年齢・家族構成で第1位の項目

③ 「催眠(SF)商法」の被害経験

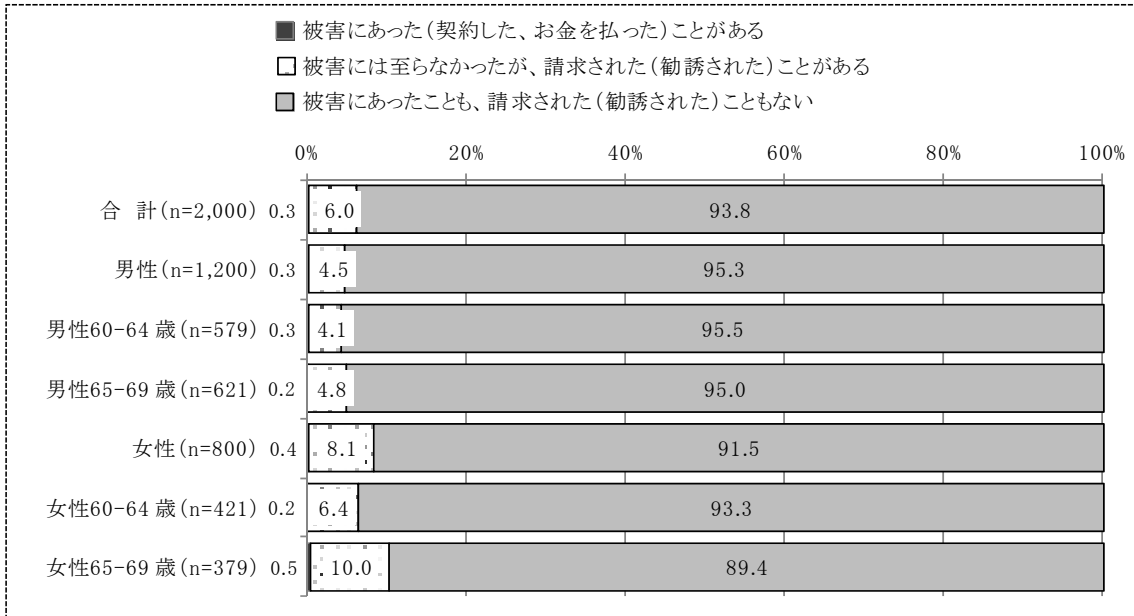
催眠(SF)商法による被害経験は、「被害にあった(契約した・お金を払った)ことがある」が0.3%、「被害には至らなかったが、請求された(勧誘された)ことがある」が6.0%、「被害にあったことも、請求された(勧誘された)こともない」が93.8%となっており、被害経験のある人は6人であった。

図表 2_69. 催眠(SF)商法の被害経験



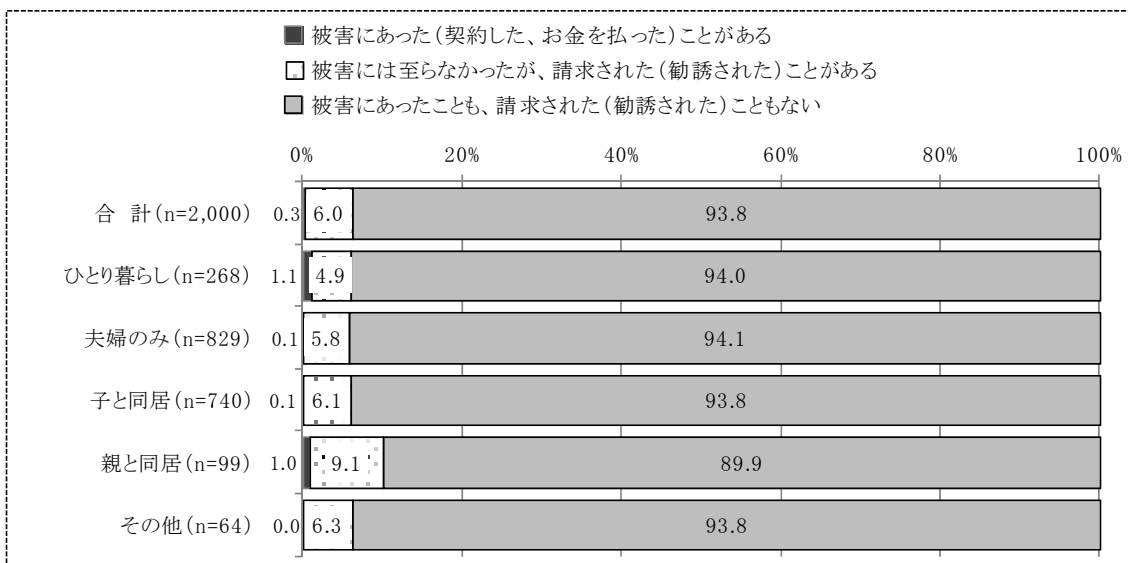
性別・年齢別にみると、「被害にあった（契約した・お金を払った）ことがある」は、女性 65～69 歳が 0.5%で最も高く、次いで男性 60～64 歳が 0.3%、女性 60～64 歳と男性 65～69 歳がともに 0.2%となっている。「被害には至らなかったが、請求された（勧誘された）ことがある」は、女性 65～69 歳で 1 割に達している。

図表 2_70. 催眠(SF) 商法による被害経験（性別・年齢別）



家族構成別にみると、「被害にあった（契約した・お金を払った）ことがある」は、ひとり暮らしが 1.1%で最も高く、次いで親と同居が 1.0%、夫婦のみと子と同居が 0.1%となっている。「被害には至らなかったが、請求された（勧誘された）ことがある」は、そのほか 6.3%で最も高い。

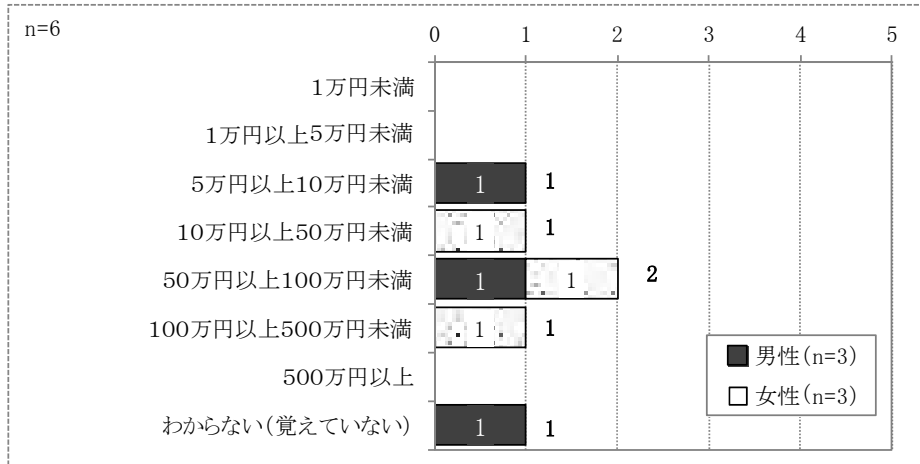
図表 2_71. 催眠(SF) 商法による被害経験（家族構成別）



④ 「催眠(SF)商法」による被害金額

催眠(SF)商法による被害経験者 6 人（男性 3 人、女性 3 人）の被害金額は、金額が小さい方で「5 万円以上 10 万円未満」、大きい方で「100 万円以上 500 万円未満」と被害者によって被害金額に差がみられる。

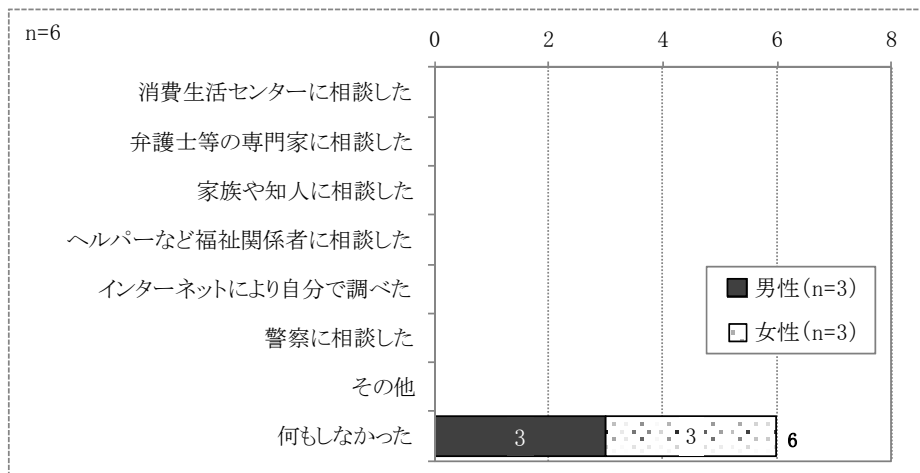
図表 2_72. 催眠(SF)商法による被害金額（男女別人数）



⑤ 「催眠(SF)商法」による被害後の行動

催眠(SF)商法による被害経験者 6 人（男性 3 人、女性 3 人）の被害後の行動は、全員が「何もしなかった」と答えている。

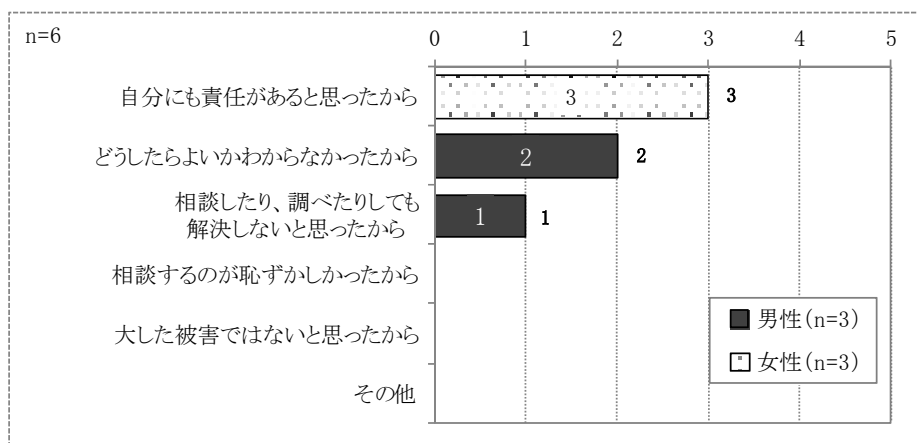
図表 2_73. 催眠(SF)商法による被害後の行動（男女別人数）（複数回答）



⑥ 「催眠(SF)商法」による被害時に何もしなかった理由

催眠(SF)商法による被害経験者のうち被害時に何もしなかった6人(男性3人、女性3人)の理由は、「自分にも責任があると思ったから」が女性3人で最も多く、次いで「どうしたらよいかわからなかったから」が男性2人、「相談したり調べたりしても解決しないと思ったから」が男性1人となっている。

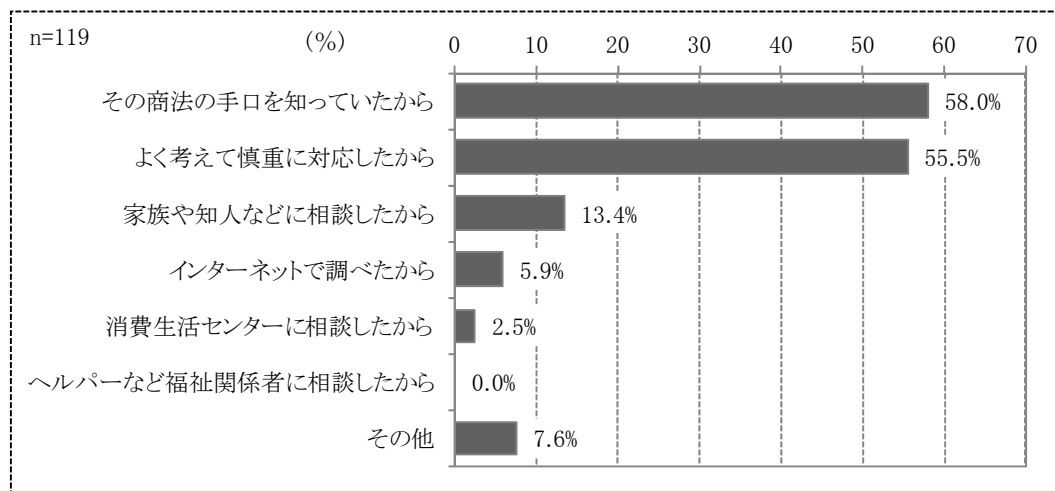
図表 2_74. 催眠(SF)商法による被害時に何もしなかった理由(男女別人数)(複数回答)



⑦ 「催眠(SF)商法」により請求されたが実被害に至らなかった理由

催眠(SF)商法により請求されたが実被害に至らなかった人(119人)の理由は、「その商法の手口を知っていたから」が58.0%で最も高く、次いで「よく考えて慎重に対応したから」が55.5%、「家族や知人に相談したから」が13.4%、「インターネット等で調べたから」が5.9%、「消費生活センターに相談したから」が2.5%となっている。「その他」の具体的な内容は、「途中で帰宅した」などが挙げられた。

図表 2_75. 催眠(SF)商法により請求されたが実被害に至らなかった理由(複数回答)



性別・年齢別にみると、男性 60～64 歳と女性 65～69 歳で「その商法の手口を知っていたから」が 1 位となっており、それぞれ 6 割を超えている。男性 65～69 歳と女性 60～64 歳は「よく考えて慎重に対応したから」が 1 位となっており、男性 65～69 歳が 63.3%で最も高くなっている。

家族構成別にみると、夫婦のみ、子と同居とその他で「その商法の手口を知っていたから」が 1 位となっており、その他が 75.0%と最も高い。ひとり暮らし、夫婦のみ、親と同居は「よく考えて慎重に対応したから」が 1 位となっており、親と同居が 77.8%と最も高い。

図表 2_76. 催眠(SF)商法により請求されたが実被害に至らなかった理由
(性別・年齢別、家族構成別)(複数回答)

(%)

		N 数	その商法の手口を知っていたから	よく考えて慎重に対応したから	家族や知人などに相談したから	ヘルパーなど福祉関係者に相談したから	相談したから	消費生活センターに相談したから	インターネットで調べたから	その他
【全体】		(119)	58.0	55.5	13.4	0.0	2.5	5.9	7.6	
【性・年齢別】										
男性		(54)	55.6	57.4	11.1	0.0	5.6	13.0	5.6	
	60-64 歳	(24)	62.5	50.0	12.5	0.0	8.3	12.5	4.2	
	65-69 歳	(30)	50.0	63.3	10.0	0.0	3.3	13.3	6.7	
女性		(65)	60.0	53.8	15.4	0.0	0.0	0.0	9.2	
	60-64 歳	(27)	55.6	59.3	22.2	0.0	0.0	0.0	7.4	
	65-69 歳	(38)	63.2	50.0	10.5	0.0	0.0	0.0	10.5	
【家族構成別】										
	ひとり暮らし	(13)	53.8	61.5	7.7	0.0	0.0	7.7	7.7	
	夫婦のみ	(48)	58.3	58.3	8.3	0.0	2.1	4.2	8.3	
	子と同居	(45)	60.0	46.7	22.2	0.0	4.4	8.9	6.7	
	親と同居	(9)	44.4	77.8	11.1	0.0	0.0	0.0	11.1	
	その他	(4)	75.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	

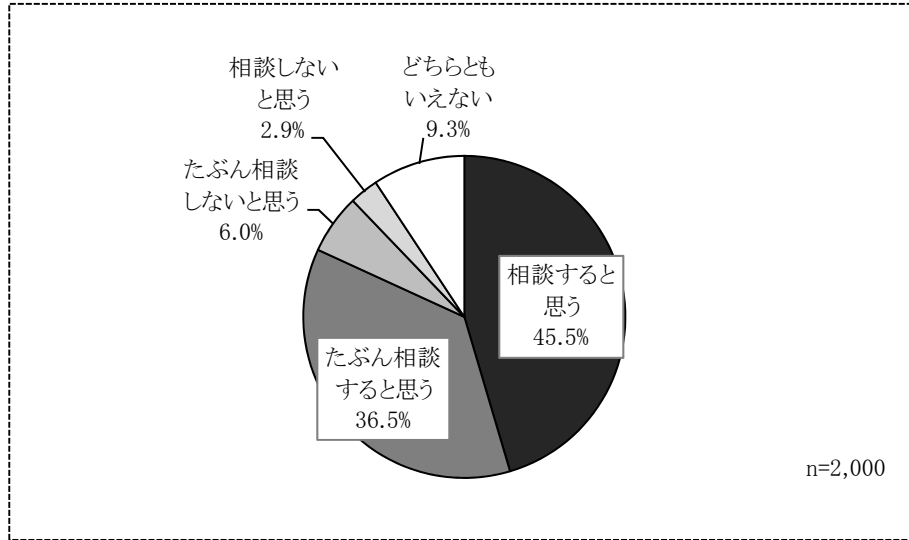
[注] 網掛けは各年齢・家族構成で第 1 位の項目

(7) 悪質商法による被害後の今後の行動意向

①消費生活センターへの相談意向

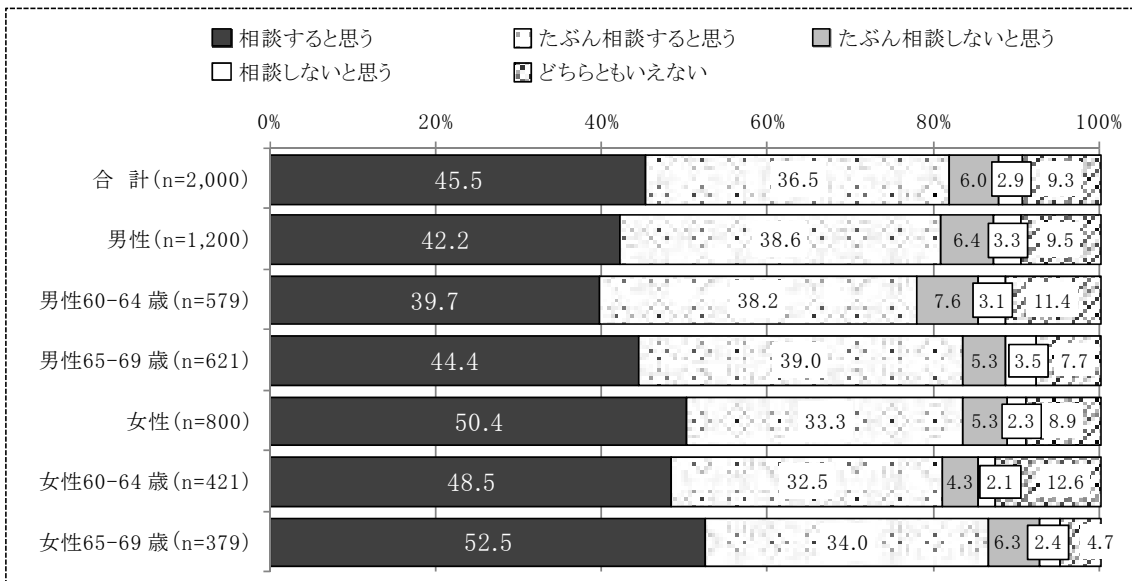
悪質商法による被害を受けた場合の消費生活センターへの相談意向は、「相談すると思う」が45.5%、「たぶん相談すると思う」が36.5%、「たぶん相談しないと思う」が6.0%、「相談しないと思う」が2.9%、「どちらともいえない」が9.3%であった。相談意向（「相談する」+「たぶん相談する」）は、81.9%と8割を超えている。

図表 2_77. 消費生活センターへの相談意向



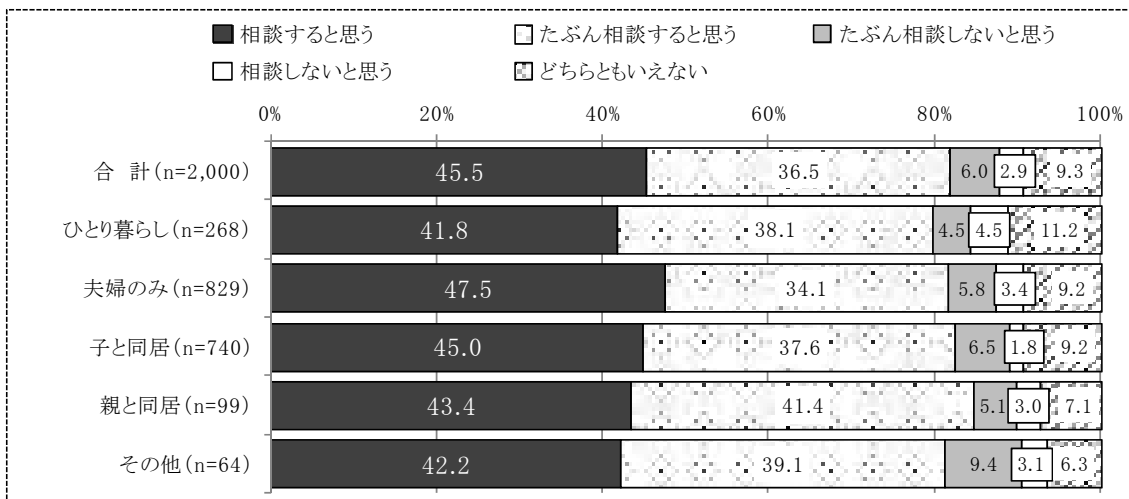
性別・年齢別にみると、相談意向（「相談する」+「たぶん相談する」）は、女性65～69歳が86.5%で最も高く、次いで男性65～69歳が83.4%、女性60～64歳が81.0%、男性60～64歳が77.9%となっている。相談意向は、男性60～64歳(77.9%)を除いたすべての年代で8割を超えている。

図表 2_78. 消費生活センターへの相談意向（性別・年齢別）



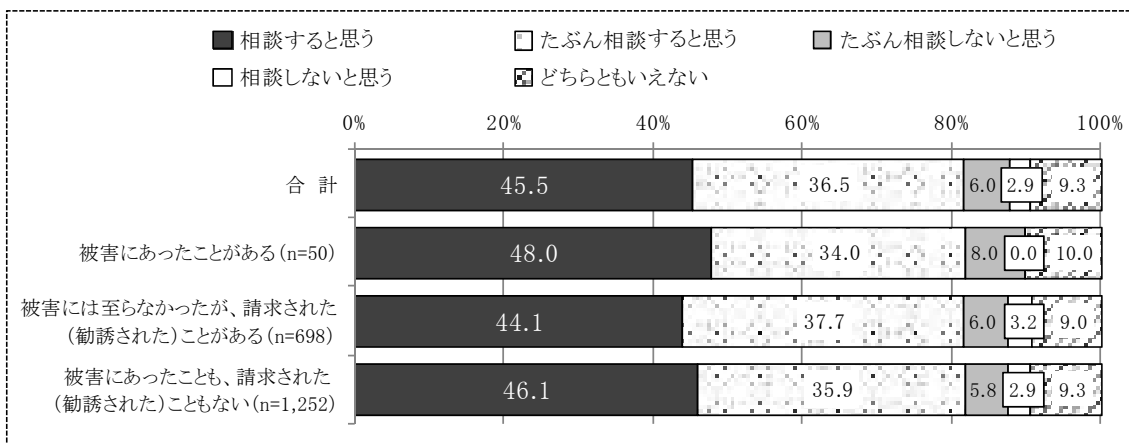
家族構成別にみると、相談意向（「相談する」+「たぶん相談する」）は、親と同居が84.8%で最も高く、次いで子と同居が82.6%、夫婦のみが81.6%、その他が81.3%、ひとり暮らしが79.9%となっている。ひとり暮らし以外の項目はすべて8割を超えている。

図表 2_79. 消費生活センターへの相談意向（家族構成別）



悪質商法の被害経験別にみると、相談意向（「相談する」+「たぶん相談する」）は、【被害にあったことがある】と【被害にあったことも、請求された（勧誘された）こともない】が82.0%で最も高く、次いで【被害には至らなかったが、請求された（勧誘された）ことがある】が81.8%となっている。いずれも8割を超えている。

図表 2_80. 消費生活センターへの相談意向（悪質商法の被害経験別）

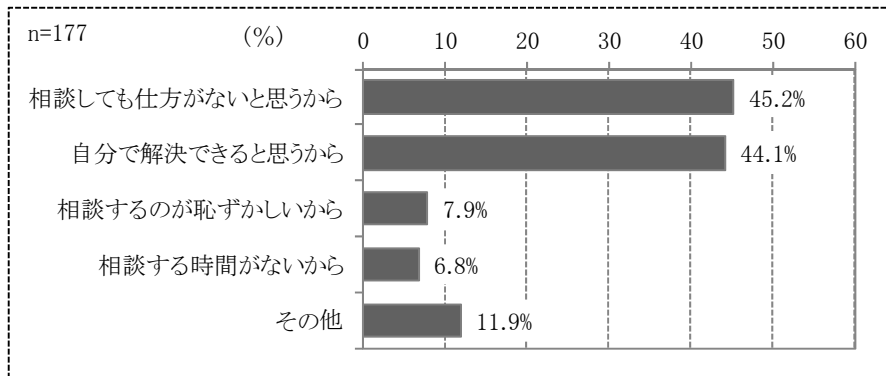


②消費生活センターへ相談しない理由

悪質商法による被害を受けた場合に消費生活センターへは相談しないとする人（177人）の理由は、「相談しても仕方がないと思うから」が45.2%、「自分で解決できると思うから」が44.1%で最も高く、次いで「相談するのが恥ずかしいから」が7.9%、「相談する時間がないから」が6.8%となっている。

「その他」の具体的な内容は、「役に立たないと思うから」「被害に遭わないと思うから」「警察に届けるから」「面倒だから」「他の所へ相談するから」などが挙げられた。

図表 2_81. 消費生活センターへ相談しない理由（複数回答）



性別・年齢別にみると、男性 60～64 歳と女性 60～64 歳と女性 65～69 歳で「相談しても仕方がないと思うから」が 1 位となっており、女性 60～64 歳が 51.9%で最も高くなっている。「自分で解決できると思うから」は、男性 65～69 歳で 1 位となっている。また、「相談するのが恥ずかしいから」は、男女ともに 60～64 歳の低年齢で 1 割を超えている（男性 11.3%、女性 11.1%）。

家族構成別にみると、ひとり暮らしと子と同居で「相談しても仕方がないと思うから」が、夫婦のみ、親と同居、その他で「自分で解決できると思うから」が、それぞれ 1 位となっている。「相談するのが恥ずかしいから」は、ひとり暮らし（12.5%）、子と同居（11.5%）、その他（12.5%）で 1 割を超えている。

図表 2_82. 消費生活センターへ相談しない理由
（性別・年齢別、家族構成別）（複数回答）

(%)

N 数		相談しても仕方がないと思うから	相談するのが恥ずかしいから	相談する時間がないから	自分で解決できると思うから	その他
【全体】	(177)	45.2	7.9	6.8	44.1	11.9
【性・年齢別】						
男性	(117)	42.7	8.5	6.0	46.2	11.1
60-64 歳	(62)	50.0	11.3	9.7	45.2	22.5
65-69 歳	(55)	34.5	5.5	1.8	47.3	17.3
女性	(60)	50.0	6.7	8.3	40.0	13.3
60-64 歳	(27)	51.9	11.1	7.4	40.7	6.7
65-69 歳	(33)	48.5	3.0	9.1	39.4	5.4
【家族構成別】						
ひとり暮らし	(24)	45.8	12.5	8.3	41.7	20.8
夫婦のみ	(76)	42.1	3.9	7.9	43.4	13.2
子と同居	(61)	50.8	11.5	4.9	39.3	6.6
親と同居	(8)	50.0	0.0	0.0	75.0	12.5
その他	(8)	25.0	12.5	12.5	62.5	12.5

[注] 網掛けは各年齢・家族構成で第 1 位の項目

悪質商法の被害経験別にみると、【被害には至らなかったが、請求された（勧誘された）ことがある】では「自分で解決できると思うから」が46.9%で1位となっている。「相談しても仕方がないと思うから」は、【被害にあったことがある】では100.0%、【被害にあったことも、請求された（勧誘された）こともない】では44.0%で、それぞれ1位となっている。

図表 2_83. 消費生活センターへ相談しない理由
（悪質商法の被害経験別）（複数回答）

(%)

	N数	相談しても仕方がない と思うから	相談するのが恥ずかしいから	相談する時間がないから	自分で解決できると 思うから	その他
【全 体】	(177)	45.2	7.9	6.8	44.1	11.9
【被害経験別】						
被害にあったことがある	(4)	100.0	25.0	0.0	0.0	0.0
被害には至らなかったが、請求された（勧誘された）ことがある	(64)	43.8	7.8	4.7	46.9	15.6
被害にあったことも、請求された（勧誘された）こともない	(109)	44.0	7.3	8.3	44.0	10.1

[注] 網掛けは各被害経験で第1位の項目